

1633

# 元老院會議筆記

治十五年(自六月)

自第二百八十五号  
至第三百二十九号

## 記錄課

司 法 省 文 庫			
和	辭	三	一
書	書	四	冊
門	部	五	架
		三	函
		號	一





司法省文庫  
第 5232 號

XB100  
G I  
I i

元老院會議筆記明治十五年一月十一日

○第貳百八拾五號議案 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第

一讀會

議長 寺島宗則

出席議員

- 十番 津田 眞道
- 九番 楠田 英世
- 八番 野村 素介
- 七番 佐野 常民
- 六番 柴原 和
- 五番 黑田 清綱

XB100  
G I i

第百八十五号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百八十六号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百八十七号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百八十八号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百八十九号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十一号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十二号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十三号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十四号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十五号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十六号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十七号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十八号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百九十九号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第  
第百一百号 地方稅規則營業稅雜種稅規則府縣會規第  
則區郡部會規則區町村會法等修正之儀第



九番 伊丹 重賢

十番 河田 景與

十二番 東久世通禧

十五番 大給 恒

十八番 津田 出

十九番 箕作 麟祥

二十番 九鬼 隆一

廿一番 河瀬 真孝

廿二番 渡邊 清

廿四番 林 友幸

廿五番 大久保一翁

廿九番 楠本 正隆

三十番 岩下 方平

卅一番 伊集院兼寛

卅二番 四條 隆訶

卅四番 榎村 正直

卅五番 淺野 長勳

卅六番 細川潤次郎

卅九番 渡邊 騏

四十番 鍋島 直彬

内閣委員 一番 参事院議官 安場 保和

同 二番 参事院員 外議官 補白根 專一



午前第十時十六分開場

○議長 第二百八拾五號議案ハ五種ノ修正布告案ヲ包含シ皆急施ス  
ヘキ者ナレトモ就中地方稅規則及營業稅雜種稅規則修正布告案ハ  
最モ急速ヲ要スルニ由リ先ツ該兩案ノ第一讀會ヲ開ク例ニ遵ヒ發  
議スヘシ

書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>第拾六號布告地方稅規則中左ノ通改正ス

第一條 (戶數割)ノ下ヘ(若クハ家屋稅)ノ六字ヲ加フ

第二條 (種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削ル

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

一 俸給

一 廳費

一 建築修繕費

一 土木費

一 道路橋梁費

一 治水堤防費

一 港灣費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費



衛生費

病院費

一教育費

師範學校中學校費

專門學校費

農工商學校費

書籍館幼稚園費

區町村立學校補助費

一郡區廳舍建築修繕費

一郡區役所費

俸給

應費

一救育費

一浦役場及難破船諸費

一諸達書及揭示諸費

一勸業費

一戶長以下給料及戶長職務取扱諸費

一地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲  
換手數料現金遞送等ノ費用

一府縣廳舍建築修繕費

一府縣監獄費

俸給

應費



在監人諸費

一府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス若シ已ムヲ得サルノ場合

ニ於テハ常置委員ノ決議ヲ經小費目ヲ流用スルコトヲ得

一豫備費豫算外ニ生シタル事件ニ充ツヘキモノ

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ

府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ之

ヲ加フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

布告案

明治十三年四月第拾七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正削除ス

第二條 營業稅目左ノ如シ

商業

工業

雜業料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋傭人受宿遊藝師匠遊藝稼人理髮人和撲俳優問藝妓捕鳥捕獸漁業ノ採獲ノ類

但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

第二條 雜種稅目左ノ如シ

市場演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓楊弓射的吹矢ノ類

入寄席



船船十石未滿漁船川船及五車馬車人力車荷積中馬車人力車荷積大七大國稅ノ

半額以內

水車

乘馬自用渡世共

屠畜

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會

ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁

可ヲ受クヘシ

第五條中(決議ヲ以テ)ノ下(稅額制限内ニ於テ)ノ八字ヲ削ル

第六條 削除

第七條 削除

第八條 府縣會ノ決議ニ依リ確定シタル課目課額ハ府知事縣令

ヨリ內務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條中(第二條)ノ下(第三條)ノ三字ヲ削ル

右奉 勅旨布告候事

○外一番保和安場 例ニ依リ本案ノ主旨ヲ開陳セン抑明治十一年府縣會

規則地方稅規則營業稅雜種稅規則ノ三法ヲ創定シ爾來之ヲ實行ス

ルニ往々支障アルヲ以テ漸次改正ヲ加ヘタレトモ尙ホ完全ナラサ

ルヲ以テ動モスレハ府知事縣令ト府縣會ト法律ノ見解ヲ異ニシ紛

議ヲ生シ遂ニ通常會期ノ中ニ府縣會ヲ開閉スル能ハサルノ地方少

ナカラス是ヲ以テ昨十四年審理局ヲ開設シ是等ノ紛議ヲ裁定スル



所ト爲セシニ幾日ナラスシテ其裁定ヲ請フ者忽チ三四縣ニ及ヘリ  
 是レ法律ノ完美ナラサルニアラスシテ何ソヤ然レトモ全ク之ヲ改  
 ムルハ素ヨリ容易ナラサルヲ以テ内閣ニ於テモ今特ニ已ラ得サル  
 部分ノミヲ改正セント又其大要ハ營業稅雜種稅ヲ制限ヲ解クナリ  
 費目ノ流用ヲ禁スルナリ戸數割ハ一般ニ施行スヘカラサルヲ以テ  
 地方ノ便宜ニ由リ之ニ代ルニ家屋稅ヲ以テスルヲ許スナリ他ハ小  
 節目ニ過キサルヲ以テ其理由ヲ辨セス各位幸ニ此意ヲ了シテ本案  
 ニ可決アラシコトヲ望ム

○七番柴原和 本案ハ各地方官ノ諮問ニ充テ又參事院ノ議定ヲ經タル  
 者ナルハ固ヨリ無瑕ノ法案ナルヘシト雖モ猶益完備ナラシメント  
 欲スルヲ以テ先ツ本官ノ解セサル所ノ者ヲ舉テ之ヲ質シ若シ不備

ナル者アラハ第二讀會ヲ俟テ更ニ修正ノ意見ヲ提出セントス第一  
 地方ノ便宜ニ任セ戸數割若クハ家屋稅ヲ徵收スルヲ許スハ東京大  
 阪京都名古屋福岡其他各開港場等戸數稠密ナル地方ニ在テハ要用  
 ナルヘシト雖モ本案ノ如クハ文意兩岐ニ分ル、ヲ以テ恐ラクハ  
 地方長官ト議會トノ間ニ紛紜ヲ生スルノ媒介トナルヘシ今假リニ  
 一例ヲ以テ之ヲ陳レハ此ニ静岡縣令ヨリ他ノ課目ト共ニ戸數割ノ  
 豫算ヲ議會ニ下付センニ議會ニ於テ若シ静岡ノミヲ家屋稅トシ其  
 他ハ舊ニ因リ戸數割ヲ課スヘシト云ハ、縣令ハ之ニ對ヘテ議會ハ  
 戸數割ノ目ニ就キ須ク其金額ノ多寡ヲ論スヘシ其戸數割ト爲スカ  
 將タ家屋稅ト爲センカ其宜キヲ撰ンテ之ヲ定ムルカ如キハ獨リ縣  
 令ノ權内ニ在リト其レ斯ノ如クハ其間ニ紛議ナキヲ欲スルモ得



ヘカラサルナリ蓋シ本案ノ意タル議會ヲシテ是等ニ論及スルヲ得  
 セシムルヤ否未タ分明ナル能ハサルナリ第二營業稅雜種稅ノ制限  
 ヲ解クハ何ソヤ本官嘗テ以爲ラク東京府下ノ如キ巨大ナル會社ア  
 リ商戸アリ是等モ一ニ制限ニ從ヘハ只十五圓以内ノ課稅ニ過キス  
 不權衡モ亦甚シト然ルニ十三年第二拾六號布告ヲ以テ府縣會ノ決  
 議ニ依リ郡區經濟ヲ殊別スルヲ允サレ又第二拾七號布告ヲ以テ東  
 京府ハ他府縣ト營業稅雜種稅ノ制限ヲ殊ニスルヲモ許サレタル上  
 ハ本官ノ顧慮モ全ク霧散シタルニ同年第四十八號布告ヲ以テ更ニ  
 地方ノ負擔ヲ重加シタレハ各地方共ニ此制限ヲ解キテ地方稅徵收  
 ノ課額ヲ増加シ以テ之ニ應セント欲スルニアルヘシト雖モ既ニ地  
 租三分一以内ト爲シタレハ或ハ之ヲ以テ増加ノ費目ニ充ルニ足ル

ヘシ又地租十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ト爲ルノ權ヲ有スル  
 モ營業稅雜種稅ヲ納ムル者ハ其幾多ノ額ニ上ルモ議員ト爲ルノ權  
 ナキヲ以テ各地ノ議員ハ概シテ農ヨリ出ルニ由リ若シ本案ノ如ク  
 無制限トセハ動モスレハ之ヲ奇貨トシテ多ク彼ニ徵シ地租ニ取ル  
 者ヲ減セント爲スノ議ニ傾向スルノ恐レナキ能ハス但議員ノ本職  
 ヨリ論スレハ斯ノ如キ顧慮ハ無用ナルニ似タルモ己ヲ利セント欲  
 スルハ人ノ常情ナレハ議員ト雖モ亦未タ利己主義ニ出ルナキヲ保  
 チ難シ故ニ十五圓以内ノ制限ヲ二十五圓乃至三十圓以内ト改ムル  
 ハ尙ホ可ナレトモ一跳シテ之ヲ無制限ト爲スハ本官ノ解セサル所ナ  
 リ第三本案第三條「警察費」ノ次ニ「俸給」トアリ之ヲ內閣委員ニ質セ  
 ハ必ス巡查以下ノ俸給ナリト答ヘン而シテ又同條ノ末項「府縣監獄



費ノ次ナル「俸給」ハ如何ナルモノナルヤト問ハ、判任以下等外吏御用掛等ノ俸給ナリト答フヘシ原來警察ハ各地方共ニ管下一般ニ關スル者ナルヲ以テ判任ノ俸給モ亦地方稅ヨリ支辨シテ可ナルニ似タレトモ監獄費ニ至テハ判任ノ俸給ニ至ル迄地方稅ヨリ支辨スヘキ理由ナキカ如シ知ラス此俸給ハ果シテ如何ナル者ソヤ第四「警察費」ノ下ニ「建築修繕費」ノ目アリテ「衛生及病院費」ト「教育費」トノ下ニ該科目ナキハ何ソヤ第五「府縣監獄費」ノ下「在監人諸費」トハ在獄人諸費ト云フノ意ナルカ又禁獄若クハ禁錮等ニ處セラレ入監スル者ノ外懲治ノ爲メ不良子弟ノ入監者アリ此輩ノ費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ限ニ非サルカ第六「營業稅雜種稅規則修正布告案中」左ノ通改正削除トアリ然ルニ本案ハ削除ノミナラス新ニ増加シタル者

モ亦ナキニ非サレハ特ニ改正削除トノミ云フヘカラス即チ「改正加除」ノ誤刷ナルカ第七「同布告案第一條雜業」ノ插註ニ「云ヤ捕鳥捕獸漁業採藻ノ類」トアリ又同第三條ニ「漁業採藻稅」ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ云ヤトアリテ前ニハ課稅ノ目トシテ之ヲ掲ゲタルニ後ニハ各地從來ノ慣例ニ依リ除稅スルトアルノ意ヲ示ス後文アレハ前文ハ不用ナルニ似タリ又「捕鳥捕獸漁業採藻云ヤ」ト云ハ、兒童ノ雀ヲ羅シ兔ヲ捕リ農夫カ田畝ノ害ヲ防禦スルカ爲メ猪鹿等ヲ狩リ村夫カ田畝ノ培養ニ充ルカ爲メ海藻ヲ採ルカ如キハ如何スルヤ以上ノ辨明ヲ請フ

○番二番白根 七番ノ質議ニ答ヘン第一戸數割ノ下ヘ「若クハ家屋稅」ノ外ニ番專一 六字ヲ加ヘタルハ戸數割ナリ家屋稅ナリ各地其宜キヲ撰ンテ之



ヲ課スヘシトノ旨趣ニシテ議會モ亦之ヲ可否スルヲ得ヘキモノナ  
 リ請フ七番ノ比喻ヲ借テ之ヲ說シ靜岡縣令ハ戸數割ヲ課スヘシト  
 ノ議案ヲ下付シ議會ハ同縣下靜岡ノミハ人家稠密且脫稅ノ恐レア  
 ルヲ以テ家屋稅ヲ課スヘシト云ン此時ニ當リ該縣令ハ本議ヲ善ト  
 セハ卽チ止ム然ラサレハ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘキノミ第  
 二及制限ノ三字ヲ削ルハ區ト郡トノ境界ハ只一步ニ過キサルモ區  
 ハ既ニ營業稅雜種稅ノ制限ヲ解カレ其部下ノ商工ニ向テ至當ノ稅  
 額ヲ賦課スルヲ得ルモ郡ハ制限アルヲ以テ些少ノ稅ヲ課スルニ過  
 キス請フ看ヨ前年東京府營業稅ノ制限ハ千五百圓以內京都府八百  
 圓以內大阪府八百五十圓以內其他神奈川縣兵庫縣等各區部ニ制限  
 ヲ上シタレトモ郡部ノ制限ハ確然動カサルヲ以テ實際其大ナルモ

ノニ寬ニシテ小ナルモノニ酷ナルカ如キ不權衡アルヲ免レサリシ  
 ナリ且地方ノ負擔ハ凡ソ四百萬圓ノ増加ヲ致シタレトモ地租五分  
 一以內ヲ三分一以內ト爲シタルヲ以テ既ニ五百萬圓許ノ餘裕ヲ生  
 シタレハ論者ノ云フ如ク營業稅等ノ制限ヲ解テ之ニ課稅セサルモ  
 可ナルニ似タレトモ從來地租ハ高割ニ爲シタル慣習ニ基キ今尙徵  
 收スルヲ以テ農ニハ既ニ多額ノ地租ヲ課スルニ因リ商工ニ向テ相  
 當ノ稅ヲ増加シ以テ平均ヲ得セシメント欲スルニ由レリ蓋シ營業  
 稅等ニハ制限アルカ爲メ豪商モ十五圓以內ノ稅ヲ課スルニ過キサ  
 レハ自然徵收額ニ不足ヲ生シ遂ニ細民ニ多額ノ稅ヲ課セサルヲ得  
 サルノ恐レアリ是レ制限ヲ解キ各地ヲシテ其宜キニ從ヒ課稅セシ  
 メントスル所以ナリ第三「警察費」ノ次ナル「俸給」ハ巡查及等外吏等



ノ俸給ヲ云ヒ「府縣監獄費」ノ次ナル「俸給」モ監守以下等外吏等ノ俸給ニシテ判任ノ俸給ハ何レモ國費ヲ以テ支辨スルモノナリ第四「警察費」ノ下ニ「建築修繕費」ノ目アリテ「衛生及病院費」ト「教育費」トノ下ニ該科目ナキハ彼ハ「俸給」ト云ヒ「廳費」ト云ヒ皆其目ニ宛テ此ハ「病院費」ト云ヒ「師範學校費」ト云ヒ又「專門學校費」ト云ヒ皆其物体ニ宛テシニ因テナリ此ノ如ク掲載スル所以ノモノハ警察費ハ一括スルヲ得ルモ衛生費病院費師範學校費等ハ各地方皆其定額ヲ殊ニスルカ爲メナリ第五「在監人」トハ囚人及懲役人等ノ入獄者ヲ云フ不良ノ子弟ヲ懲治監ニ入ル、費用ノ如キハ監獄則ニ從ヒ其父兄ヨリ支辨スルヲ本則トシ若シ能ハサレハ已ヲ得ス地方稅ヨリ之ヲ補償スルモ是レ本則ニ非ルナリ第六「改正削除」トアルハ「改正加除」ノ誤リ

ト解得シテ可ナリ第七「漁業採藻」ノ文字ヲ加ヘタルハ現行法ニ營業稅目ハ何々雜種稅目ハ何々ト皆其課目ヲ掲ケタルニ「漁業採藻」ノ二箇ハ其何ノ稅目中ニ屬スルヤヲ示サスシテ突然第三條ニ「徵稅」ノ方法ヲ説クハ頗ル法律ノ體裁ヲ失ス故ニ今之ヲ掲ケテ其不備ヲ補フニ在リ決シテ甲乙抵觸ノ恐レナキノミナラス却テ美ヲ添ヘタルモノトス又「捕鳥捕獸」ノ文字ヲ加ヘタルハ從來各府縣ヨリ該營業者ニ對シテ特別課稅ヲ請フ者頻繁ナルヲ以テ今之ヲ掲ケテ後來此繁ヲ省クニ在リ又兒童カ雀ヲ羅シ農夫カ田園ノ害獸ヲ狩リ又沿海ノ村夫カ巴レノ田畝ヲ培養スル爲メニ海藻ヲ採ルカ如キハ皆悉ク稅ヲ課セズ是レ畢竟營業ノ爲メニスルニ非サレハナリ租貢ノ營業者ニ就キ課稅スルト否トヲ定ムルハ十三年第拾七號布告第四第五兩條



ニ依リ地方長官ト議會トノ所見ニ委スルナリ

○七番柴原和

番外二番ヨリ詳細ノ答辨ヲ得タレトモ本官ハ猶未タ解得セサル者アルヲ以テ再ヒ之ヲ質サン「警察費」ノ次ナル「俸給」ハ十四年第拾六號布告府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合三第一條、東京府ハ警察費總高ノ十分ノ六トス第二條、京都府大阪府并各縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ地方稅支出高ノ十分ノ三トス第三條、前二ヶ條割合ノ外警察官吏(巡查ヲ除ク)ノ外等外吏トモ並ニ之ニ準スヘキ備内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス「トアルヲ以テ判任ノ俸給ハ國庫ヨリ支給シ等外吏等ノ俸給ハ地方稅ヨリ支辨スヘキハ本官等モ亦領知スル所ナレトモ府縣監獄費ニ就テハ判任ノ俸給ハ國庫ヨリ支給シ等外吏以下ノ俸給ハ地方稅ヨリ支

辨スヘシトハ假令内閣委員ハ能ク之ヲ領スルモ本官等ハ未タ其意ヲ解得スル能ハサルナリ故ニ本案發表ノ日該布告ヲ併セテ頒布ストノ答辨ナレハ則チ聽クヲ得タレトモ目下番外二番ノ説明ハ未タ盡セリト爲スヘカヲサルナリ

○番二番白根專一

監獄費ハ警察費ノ如ク法律ニ明文ナキモ從來府縣經費中ノ一ニシテ十三年第四十八號布告以來地方ノ負擔スル所トナリタレハ獄丁其他等外吏ノ俸給ハ地方稅ヨリ支辨シ典獄其他判任官ノ俸給ハ縣費ヨリ支給スルハ明白ナリ請フ看ヨ從來曾テ其支出如何ニ係リ内務省ニ稟議シタル地方ナキヲ矧ヤ十四年ノ豫算モ各地皆右ノ如ク編成シタルヲヤ是レ其明文ナキモ實地ニ施シテ支障ナキ確證ト云フヘキナリ



○五番佐野  
常民

番外一番ハ本按發表ノ要旨ヲ辨明シ且曰ク法律ノ改正ハ決シテ苟モ爲スヘカラサルヲ以テ今回モ成ル可クハ舊ニ依テ之ヲ變モズ唯其已ヲ得サル者シミヲ改ムルニ在リト法律ノ苟モ改ムヘカラサルハ本官モ亦大ニ左袒スル所ナリ然ラハ則チ營業稅雜種稅ヲ制限ヲ解クト費目ノ改正ヲ爲ストハ果シテ其已ムヲ得サルニ出ルモフナルカ本官ハ之ヲ知ラサルナリ夫レ時勢ノ進歩ニ從ヒ事務モ漸ク追テ繁劇ニ至ルヘキヲ以テ各地方共ニ費額ノ増加ヲ要スルハ理ノ最モ看易キ者ナリ矧ヤ十三年第四十八號布告發表以來地方ノ負擔ハ俄ニ夥多ノ増加ヲ致シタレハ從來ノ收入額ヲ以テ之ニ應スル能ハサルハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ是レ嚮ニ地租五分一以内ノ制限ヲ三分一以内ニ上セタル所以ニシテ某議官カ營業稅雜種

稅ノ制限ヲ解カサルモ彼ヲ以テ新タニ増加シタル地方ノ費額ニ充ルニ足ルヘシトノ說モ亦之ニ因ルナルヘシ然レトモ番外二番ノ說明ノ如ク唯地租部内ノミヲ増加シテ營業稅雜種稅ヲ革メサレハ平均ヲ失シ且ツ此制限ニ循ヘハ同一ノ營業者中膏壤ノ差等アルモ齊ク十五圓以内ノ課稅ニ過キサルヲ以テ遂ニ其大ナルニ薄クシテ小ナルニ厚キノ不權衡ヲ免カレサルハ亦省セサルヘカラサルコナリ故ニ十五圓ノ制限ハ猶襲フヘカラサレトモ之ヲ全廢シテ地方ニ一任スルハ是レ止ムヲ得サルノ改正ナリト云フヘキカ原來區ト郡トハ其經濟ヲ殊別セサルヘカラサル者アルハ本官モ亦確信スル所ナレトモ各區郡必スシモ皆然ルニ非サルヘシ乃チ是等ハ地方ノ便宜ニ委シテ可ナリト雖モ本案ノ如ク苟モ日本全國ノ利害ニ關係スル



至重至大ノ者ニシテ之ヲ地方ニ委任スルハ實ニ其意ヲ得サルナリ其レ斯ノ如クシハ向年地租五分一以内ノ制限ヲ三分一以内ト爲シタルモ又第三條ヲ以テ「漁業稅採藻稅」ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ云々」ト云フカ如キ丁寧ナル法ヲ掲載シタルモ全ク徒法ニ屬スヘシ看ヨ農ノ地租ヲ納ムルモ商工ノ營業稅等ヲ納ムルモ其義務タルヤ均ク一ナリ然ルニ地租ヲ出ス者ハ獨リ地方參政ノ權ヲ得テ營業稅ノ如キニ至テハ幾多ノ金額ヲ上納スル者アルモ之ニ因テ參政ノ權ヲ得ル能ハスト爲スハ豈不權衡ナラスヤ故ニ本官ハ以爲ラク營業稅ノ如キモ他日國稅中ノ一ニ加フヘキ者ニシテ夫ノ國會開設ノ期ニ至レハ本稅若干以上ヲ納ムル者ハ乃チ參政ノ權ヲ得セシメテ可ナリト理ヲ以テ論スレハ其レ斯ノ如シ又實際上ヨリ看

察セハ本邦ノ經濟ハ從來農ニ因テ立チ明治十一年地方稅規則營業稅雜種稅規則ヲ創定シ商ニ課稅スルコト爲レリ然ルニ工ニモ富豪ノ者アレハ亦課稅シテ可ナリト曾テ論駁セシ者アリタレトモ當時職工ハ我國ニ於テ特ニ其振ハサルヲ憂フルノ秋ナルヲ以テ獎勵ノ爲メ之ニ稅ヲ免スルコトナレリ爾後竟ニ工ニ課稅スルニ至リタレトモ前說ノ如キ沿革ナルヲ以テ商ニ十五圓ヲ課セハ工ニ七圓乃至十圓ヲ課スルニ非サレハ夫ノ立法ノ精神ニ適合セサルナリ夫レ大政府ハ全國一般ヲ統轄シ全國一般ノ安寧保護ヲ主トル者ナレハ之カ費用ヲ全國一般ニ徵收スルハ固ヨリ其所ナリ然ラハ則地租ニ三分一以内トノ制限ヲ立テ之ヲ徵スルトセハ何ソ營業稅雜種稅ニモ亦若干ノ制限ヲ立テ之ヲ課シ政府ハ各地ヲシテ大ニ不平均ナカラ



シメ以テ全國統轄ノ名ニ背カサルヲ期セサルヤ各位モ知ル如ク東京府ハ營業稅雜種稅ノ制限ヲ解カレタルニ依リ既ニ千五百圓以内ノ稅ヲ課セシモノアリシト之ヲ彼十五圓以内ノ制限ト比較セハ其差果シテ如何ソヤ蓋シ工業振ハサレハ商業モ亦盛大ニ至ラス因テ全國ノ經濟上ニ大困難ヲ來スハ知ルヘキナリ制限ヲ解クノ弊ヤ其レ此ノ如シ故ニ斯ル至大至重ノ事件ニ至テハ決シテ此般ノ如キ急速ナル議決ヲ要セスシテ假令半年若クハ一年ノ久キヲ經ルモ之ヲ既往ニ徵シ之ヲ實際ニ考ヘ審議討論シテ後チ始テ之ヲ爲スニ非サレハ不可ナリトス試ニ想ヘ各地ノ便宜ニ委セハ人心ハ猶其面ノ如ク各異アルヲ以テ甲ハ云シ商ハ農ヨリ重課スヘシト乙ハ云シ農ハ商ヨリ重課スヘシト彼此同一厚薄ナキヲ欲スルモ決シテ得ヘカラ

サルナリ理論上ヨリ說クモ實際上ヨリ論スルモ無制限ト爲スノ不可ナルハ一言以テ之ヲ蔽フニ足ル故ニ十五圓以内ナル制限ヲ四十圓以内若クハ五十圓以内ト爲スハ則チ可ナレトモ一跳シテ無制限ト爲スカ如キハ本官ニ於テ徹頭徹尾其故ヲ了得スル能ハサルナリ又小費目増加及流用ノ一段ニ至テモ頗ル大切ナル事件ニシテ是亦舊ニ依テ變更セサルヲ可トス但常置委員ノ決議云々トアレハ是レ大体ニ於テハ大ナル支障ナカルヘシト雖モ大藏省ノ豫算決算ニ流用シテ可ナルモノト流用ヲ許サルモノトノ内規アレハ彼ニ據テ行政規則ヲ設クレハ則チ足レリ若シ之ヲ法律ニ掲クヘシトセハ此ノ如キ姑息ノ方法ヲ用キス斷然其流用ヲ許ス者ト否トヲ分別シテ之ヲ示スヘシ之ヲ要スルニ本官ハ一跳シテ無制限ト爲スト費目ノ



改正ヲ爲ストニ至テハ夫ノ番外一番及二番ノ説明ノミニテハ未ダ  
 已ヲ得サル所以ヲ解得スル能ハサルナリ更ニ詳細ナル説明ヲ請フ  
 ○番一安場保和五番ヨリ縷々ノ質疑アリト雖モ之ヲ要スルニ内閣委  
 員ノ言ニ已ヲ得サル者ノミヲ改正スト云フモ營業稅雜種稅ノ制限  
 ヲ解キ一跳シテ無制限ト爲シ之ヲ地方長官ト議會トノ所見ニ放任  
 セハ十一年營業稅雜種稅規則等制定ノ旨趣及十三年地租額ヲ三分  
 一以内ト爲シタル精神ニ背戾抵觸シ又費目ハ舊ニ依テ十六費目ト  
 爲シ今回増加シタル者ノ如キハ行政ノ處分ニ委シテ可ナリトノ二  
 點ニ外ナラサルヘシ蓋シ其第一問ノ如キハ番外二番ノ辨明ニテ既  
 ニ盡タリト思考スレトモ今併セテ之ヲ説ク抑之ヲ無制限ト爲スハ  
 三箇ノ已ヲ得サル理由アリテ然ルナリ其一ハ十三年第四十八號布

告ヲ以テ地方ノ負擔ヲ重加シタレハ地租額ハ三分一以内ト上セタ  
 ルモ唯之ヲ以テ彼ニ應スル能ハサルナリ看ルヘシ土木費ノ如キハ  
 從來國庫ヨリ補助シタルモ猶足ラスシテ常ニ土功ノ全キヲ得サル  
 ニ苦ムアルヲ是等モ彼道路橋梁費等ト同ク地方ノ負擔ニ歸セラレ  
 タル今日ニ方リ豈能ク地方從來ノ收入額ヲ以テ此重大ナル負擔ニ  
 堪ユヘケンヤ嘗テ内務卿ヨリ船車稅ノ制限ヲ解キ各地方ヲシテ適  
 宜ニ課稅セシメンコトヲ政府ニ稟請シタルモ亦之ニ因テナリ而シテ  
 政府モ此稟請ノ實際已ヲ得サルニ出ルヲ知ルモ事ノ重大ナルヲ以  
 テ當時之ヲ裁可スル能ハス是レ一理由ナリ其二營業稅ヲ徵スルニ  
 東京府ハ千五百圓以内大阪府ハ百五十圓以内京都府ハ百圓以内ト  
 爲シタル等或ハ區ニ制限ヲ解キタルニ原スルヨリ生スル所ノ差等



ナリトシテ無制限ヲ否トスル者アルモ既ニ番外二番ノ説明セルカ  
 如ク此最多限ヲ定メサレハ同商買中ト雖モ課税ノ權衡ヲ保チ難ケ  
 レハナリ乃チ此ノ如クシテ區内商買課税ノ權衡ハ能ク調和シ得ル  
 モ郡又ハ區ト郡トノ平均ハ得テ望ムヘカラス是レ十五圓以内ナル  
 制限ノ以テ動カスヘカラサルニ由テナリ夫ノ大阪府某停車場近傍  
 ノ地ノ如キハ郡區相密接シ共ニ繁昌ノ別ナキモ區ハ已ニ百五十圓  
 以内ニ上リ郡ハ十五圓以内ノ課税ニ過キス其差異豈亦大ナラスヤ  
 是レ第二ノ理由ナリ又無制限ト爲スモ彼レ蓋シ無智者ニアラス故  
 ニ濫リニ税ヲ増加セサルヤ自ラ明カナリ而ルニ若シ十五圓以内ノ  
 制ヲ改メ四十圓乃至五十圓以内トセハ議員ハ成ルヘク其標準ニ據  
 テ課税セントシ實際却テ重課ニ失スルノ恐レアルヲ免カレス是レ

第三ノ理由ナリ以上三箇則チ無制限ト爲スノ已ムヲ得サルノ理由  
 ニシテ之ヲ約スルニ政府ハ夫ノ十一年三新法創定以來今日ニ至ル  
 迄及實歴内務卿及各地方長官ノ意見トニ由リ全國應分ノ度ヲ量  
 リ今之ヲ解キ地方官長ト議會トノ所見ニ委スルニ在リテ決シテ  
 時ノ嗜好ニ出テ輕易ニ之ヲ廢セシトスルニ非サルナリ又地租ニ制  
 限アリテ營業稅雜種稅ニ制限ナキハ不權衡ナリトフ說アレトモ地  
 租ハ從來各地方ニ於テ制限アリシニ基キ斟酌シタル者ニシテ營業  
 稅雜種稅ノ制限トハ亦同一ナラス故ニ彼ヲ存シテ此ヲ削ルモ亦決  
 シテ不權衡ト云フヘカラサルナリ況ヤ之ヲ解クモ之ガ爲メ重課ノ  
 憂ヒテ解カサレハ却テ其大ナル者ニ寛ニシテ小ナル者ニ酷ナル  
 ヲ恐レアルヲヤ又小費目ノ如キ從前ハ概シテ地方長官ノ隨意ニ之



ヲ流用セシモ時勢ノ進歩ニ從ヒ議會ニ於テ之ヲ非難スル者漸ク追  
 テ増加シ現ニ往々審理局ノ裁定ヲ請フ者アルニ至レリ事實既ニ此  
 ノ如クナレハ五番ノ說ノ如ク行政規則ヲ以テ之ヲ處理スル等ノ手  
 段ハ到底議會ヲシテ満足セシムル能ハサルニ由リ今若干ノ小費目  
 ヲ添加シテ之カ流用ヲ禁シ以テ政府カ議權ヲ重シスルノ意ヲ知ラ  
 シメ且ツ地方長官ノ抑壓ヲ防キ併セテ葛藤ヲ將來ニ絶メトスル  
 在リ或ハ曰フ若シ議會ヲシテ與フルニ中六部ノ權ヲ以テ出ハ彼  
 ハ之ニ満足セズシテ遂ニ其他ヲ得レト要求スルニ至ラシメ是レ却  
 テ異日困難ヲ生スルノ緣因トナルヘケレハ寧ロ始メヨリ全ク與ヘ  
 サルノ勝レルニ若カスト是亦現況ヲ看察セサルヲ說テ少原來地方  
 參政ノ權ノ如キ歩々序ヲ追ヒ着々實ヲ認メテ後チ之ヲ許スヘクシ

ヲ決シテ輕易ニ爲スヘカラサル者ナリ即チ目下地方ノ實況ハ前年  
 比スレハ稍面目ヲ改メシモ未ダ完全ノ域ニ達セサレハ姑息ノ改  
 正ニ似タルモ忍テ今回ハ此ニ止メ爾來數年ヲ輕過シ一層進歩ヲ實  
 ヲ現ハシタルヲ俟テ始メテ其他ノ地位ヲ與ヘシト欲スルナキ若シ  
 然ラズシテ舊ニ依テ十六費目ニ止メハ紛議益甚ク以テ遂ニ如何ニ  
 惡結果ヲ醸成スルモ亦未ダ計ルベカラズ而シテ今日日本案ノ如ク改  
 正セハ議會ハ其權ノ増加ニ満足シ地方官亦之カ爲メ敢テ障礙ヲ  
 蒙ルニ至ラサルヘシ何トナレハ常置委員ハ臨時府縣會ニ代テ地  
 方官ヨリ下付ノ案ヲ議決スルノ權ヲ有スルヲ以テ府知事縣令ニ於  
 テ從來ノ慣習等ニテ已テ得ル元費目ノ流用ヲ要スル時ハ該委員ノ  
 決議ヲ經テ之ヲ爲スル一活路アレハナリ又營業稅雜種稅等ノ事ニ



就其ハ十二年三新法制定ヲ時ニ方ルテハ既ニ種々ノ議論アリ蓋シ  
 其以前ハ皆府縣稅ノ名稱ニ依テ各地方隨意ニ之ヲ徵收セシヲ以テ  
 課目ノ如キハ甲乙其數ヲ異ニシ多キハ百五十少キハ十五若シクハ  
 二十ニ過キサルカ如キ不權衡ノ弊アリ然ルニ十二年始メテ之ヲ  
 一定シ且徵收ノ額ニ制限ヲ付シタリ此大旨尙本仲買卸賣等ノ如キハ  
 其平均ヲ得ルニ難ク終末今日ノ如ク改正而セラルヘカヌアルニ至リ  
 然論者又云テ地租ヲ納ムル者ノ地方參政ノ權ヲ得營業稅雜種稅  
 ヲ納ムル者ハ參政ノ權ヲ得其ルハ不權衡ヲ免カレズト眞ニ然リ而  
 至キ是時尙早キヲ以テ今其貸スニ許多ノ年月以テ以テ是等皆  
 整頓遺憾大キニ至ルカシ蓋シ本案大如キモ亦之カ準備ノ楷梯ト云  
 ハ必カ本案改正ノ己ヲ得サル理由ハ大抵此ノ如ク幸ニ此意ヲ領シ

承速ニ可決然ルニ其望ムル所ニ至ラズト雖モ其日不  
 ○議長ニ質疑未タ盡サレトモ時午ヲ過タルヲ以テ暫ク本會ヲ中止ス  
 今客散會セ其室ヲ閉マシテ其後ニ由テ議ノ成ルルニ至リ  
 小費午後零時十五分開場員宿ヲ編會スル間ニ其後無事トモ  
 議中掛スル所又ハ其小費目モ亦ハ其議中ヲ禁スルノ旨懸ク其後  
 目録午後第五時三十分開場員大ニ終セテ其後無事トモ恒本案小費  
 收營業遺席無事トモ其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ  
 其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ  
 其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ其後無事トモ  
 ○二十番局 本官ハ幸ニ各番一州一會ハ内伊集院兼寬間  
 ○議員 同前ノ歸會ヲ聞ク其後 卅九番 渡邊 二下 驥



○議長 午前ノ續會ヲ開ク  
 ○二十番九鬼 本官ハ幸ニ各部委員會ニ於テ内閣委員ニ質問スルヲ得タレハ本會ニ於テハ唯本案全體ニ關シ所見ヲ陳ヘ俾セテ建議スル所アヲントス抑案中戸數割ノ下ハ若クハ家屋稅ノ六字ヲ加フルト營業稅雜種稅ノ制限ヲ解トハ本官モ亦之ヲ可シセリ只本案小費目追加ノ一段ニ至テハ其所見大ニ殊ナル者アルヲ以テ之ヲ辯セサルヲ得ス按スルニ小費目ヲ加ヘテ其流用ヲ禁スルノ旨趣タル近來小費目ノ流用ニ關シ地方長官ト議會トノ間ニ於テ屢紛議ヲ生シ往々審理局ノ裁定ヲ請フニ至リシ者アルニ由リ斯ノ如クシテ議會ニ満足ヲ與ヘ以テ將來ノ紛議ヲ絶シトスルニ在リテ一方ヨリ云々地方自治ノ精神ヲ發揮セシムルノ手段ニ似タリト雖モ是レ目下ノ

時勢ニ通曉セサルノ考察ニシテ例ヘハ斗升中一合ノ滋味ヲ與ヘテ以テ其歡心ヲ得シト欲スルカ如シ焉ソ知ラシ得ル者ハ益其多キヲ欲シ遂ニ斗升ヲ得サレハ満足セズト却テ紛議ヲ醸成スルニ至ルコト且其レ此ノ如ク小費目ヲ列記シテ其流用ヲ許サストモハ其大費目中一ノ小費目ハ贏餘ヲ生シス小費目ハ不足ヲ生スルモ彼ヲ以テ此ヲ補フ能ハサルニ由リ其弊ヤ自ラ各費目ノ豫算金額ヲ增加徵收スルニ至ルヤ必セリ其他猶數害アリ小費目ハ其數夥多キヲ以テ之ヲ網羅シテ掲載セント欲スルモ亦決シテ遺漏ナキヲ免ズ而シテ其遺漏スル所ノモノハ自カテ其費額支出ノ途ヲ失ヒ爲メニ在來ノ事業ヲ廢絶スルニ至ルヘシ看ヨ本案ハ各地方官ノ諮問會ヲ經過シ又參事院等ニ於テモ充分ノ審議ヲ盡シテ本院ニ下付セシ者ナ



レハ其調査ハ固ヨリ周到ナルヘキニ案中唯教育ノ一項ノミニテ之  
 又例スルモ高學校、盲啞學校、外國語學校、商船學校等ハ現ニ遺脱ス  
 ルニ非スヤ議者或ハ曰ン若シ遺脱アラハ宜ク之ヲ補充スヘシ何ソ  
 必スシモ之ヲ列記シテ不可ナルアラシヤト決シテ然ラス本案ハ數  
 回ノ調査ヲ經過シタルモ遺脱ヲ免レサル斯ノ如シ今之ヲ補充スル  
 モ其他ニ於テ焉ソ得テ其完キヲ期スヘケンヤ是レ畢竟金テ望ムル  
 ガラサルノコトナレハナリ又土木費中道路橋梁費治水堤防費ヲ自  
 アルモ夫ノ隅田川熊谷堤觀音堤等ノ如キ道路ニシテ堤防ヲ兼ル者  
 ハ何ヲ以テ區分スルヤ是レ亦小費目ヲ列記スルカ爲メ生スル所ノ  
 困難ト云フヘシ故ニ本官ハ大費目ノミニ止メテ他ハ悉ク削除セシ  
 ヲ欲スルナリ猶是等ハ第三讀會ヲ待テ詳論スヘシト雖モ本案ハ特

ニ重大ナル法案ニシテ且條中頗ル錯雜セルヲ以テ全部付託修正委  
 員ヲ撰定セラレシトヲ建議ス

○番二番白根

外專一 本案ノ主旨ハ既ニ辨明シ盡シタリト思考セシニ目下

廿番ヨリ費目ノ改正ニ關シ異說アルヲ觀レハ其旨趣ノ猶未タ議場  
 ニ徹底セサル者アルニ因由セルカ如シ仍テ再ヒ費目改正ノ已ヲ得  
 サル理由ヲ辯セン夫レ現行法ハ十六費目ノ流用ヲ禁スルノミニシ  
 テ其一費目内ノ流用ハ法律ノ敢テ禁スル所ニ非サルヲ以テ其流用  
 ヲ要スル時ハ之ヲ會議ニ付セス府知事縣令限リ適宜處分スルヲ得  
 ルカ故ニ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ往々紛議ヲ生シ終ニ審  
 理局ノ裁定ヲ請フニ至ル者アリ然ルニ法律ニ之ヲ禁スルノ明文ナ  
 キヲ以テ毎ニ議會ノ敗トナルモ之カ心裏ヲ敲ケハ甘シテ其裁定ニ



服スル者殆ト稀ナリ是レ最モ憂フヘキ事件ニシテ迅ク此等ノ紛議ヲ將來ニ杜絶スルノ途ヲ講セスンハ他日如何ナル困難ヲ生スルモ亦知ルヘカラサルナリ是レ費目ヲ改正シ其流用ヲ禁シテ議會ノ議決ヲシテ益確實ナラシメント欲スル所以ナリ其レ然ラハ啻ニ十六費目ノミナラス小費目モ亦均ク流用ヲ禁スヘキニ似タレトモ目下時機猶早キヲ以テ未タ一跳此ニ臻ル能ハサルナリ然ラハ此改正ハ全ク止ムヘキカ前述ノ如キ障礙アルヲ如何セン乃明治十二年ニ在テハ大費目ノ流用モ之ヲ許シタルニ時勢ノ進歩ニ從ヒ十三年ニ至リ之ヲ禁シタルト同ク今又各地方中類例多キ費目ニシテ且地方官ト議會トノ間ニ紛議ヲ生スルノ恐レアル者ヲ列記シテ其流用ヲ禁シ猶且實際行政官ノ便宜ヲ料リテ已ヲ得サルノ場合ニ於テハ常置

委員ノ決議ヲ經テ小費目ヲ流用スルコトヲ許セリ以テ以上ノ困難ヲ除去スルヲ得ヘシ啻ニ以上ノ困難ヲ除去スルノミナラス漸ヲ追テ議會ニ權利ヲ付與スルハ理ノ當ニ然ルヘキ者ニシテ若シ行政官ノ便利ノミヲ是レ料ラハ十六費目ノ流用ト雖モ亦許サ、ルニ如カサルナリ某議官ハ一合ノ滋味ヲ與フレハ遂ニ斗升ノ滋味ヲ欲スルニ至ルヘシ寧ロ始メヨリ與ヘサルノ優レルニ若カスト論スレトモ内閣ニ於テハ斗升ト雖モ素ヨリ其時機ヲ量リテ與フルノ精神ナリ請フ看ヨ各府縣ノ經費ハ廳費ト云ヒ俸給ト云ヒ雜給ト云ヒ各々分別アリテ彼ニ餘リアルモ此ヲ補フ能ハス此ニ足ラサルモ彼ニ取ル能ハサルヲ府縣ノ經費ニシテ其レ斯ノ如クナルニ地方稅ノ流用ハ十六費目ノ外府知事縣令隨意ニ之ヲ爲スヲ得ルハ豈其平ヲ得タル



者ト云フヘキカ又土木費中道路橋梁費治水堤防費等ハ各其性質ヲ殊ニシ是等ハ地方費中最モ巨額ノ者ニシテ各地ノ議會ニ於テモ一層嚴論審議スル者ナレハ此ニ之ヲ列記シタリ某議官ハ隅田川熊谷堤等ノ如キ道路ト堤防トヲ兼ル者ハ如何シテ區別スルヤト云フト雖モ斯等ハ皆其主稱アル方ニテ區分スヘシ那ノ醫學校ニシテ病院ヲ兼ルカ如キモ亦此類例ニ外ナラサレハ敢テ顧慮ヲ要セサルナリ費目改正ノ理由ハ以上陳述スルカ如シ猶言ヲ畢ルニ及ンテ此ニ一言ヲ添シ地方稅規則立法ノ主旨ハ將來永ク十六費目ノミニ止メテ他ハ流用ヲ許サント欲シタルニ非サルハ既ニ本員ノ喋々辯明シタルカ如シ是ヲ以テ現ニ各地方ノ豫算ヲ觀ルニ些細ノ目ニ至ル迄議案ニ掲載シテ議會ニ下付シタル者往々之アリ且其決議書ニハ本

則第五條ニ遵ヒ地方官ハ「議決ノ趣認可候事」トノ指令ヲ付スヘキニ由リ地方官ニシテ之カ流用ヲ爲ス等ノ事アラハ忽チ議會ト紛議ヲ生スルニ至ル其例亦鮮少ナラサルナリ然ラハ各地方ヲシテ小費目ハ爾來勉メテ議案ニ掲載セサラシメンカ是レ從來ノ慣例ニ違フヲ以テ今俄ニ施スヘカラサルナリ況ヤ前述ノ如ク將來ハ益議會ノ權ヲ増進セシムヘキ目的ナルニ於テヲヤ幸ニ深思熟考アリテ本案ニ可決アラシムヲ望ム

○七番柴原和

本官ハ第二讀會ヲ俟テ猶發論セント欲シタルニ目下二十番ノ論說ニ對シ番外二番ノ說明中本官不同意ノ言アルニ因リ殊ニ番外二番ノ說ヲ駁セントス明治十三年第十六號布告第一條ニ地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス、一、地租三分一以內、一、營業稅雜種稅、一、



數割「トアルニ依リ例ヘハ五十萬圓ヲ地方稅ニ徵收セントスルニ方  
 リ地方長官ハ地租ニ三十七萬圓營業稅雜種稅ニ若干圓戶數割ニ若  
 干圓ヲ課セントノ議案ヲ下付シタルニ議會ハ之ヲ修正シテ甲地ハ  
 戶數割乙地ハ家屋稅ヲ賦課スヘシト議決シタランニハ長官ハ之ヲ  
 斥ケ議會ハ當ニ戶數割ノ目ニ由テ其多寡ヲ議スヘシ其戶數割トセ  
 シカ若クハ家屋稅ニナサンカ之ヲ選フノ權ハ地方長官ニ在リト云  
 ハ、如何スルヤ番外二番ハ戶數割若クハ家屋稅トアル以上ハ議會  
 ニ於テ之ニ容喙スルハ固ヨリ法律ノ許ス所ナリト云フト雖モ本案  
 ノ如キ茫漠タル文章ニテハ決シテ此ノ如ク解スルヲ得サルナリ

所勞退席

卅六番

細川潤次郎

又小費目ヲ削ル廿番ノ說ハ本官ノ大ニ左袒スル所ニシテ其理由ハ

多々アリト雖モ先ツ其一二ヲ擧レハ以上費目互ニ流用云々ノ下「已  
 ヲ得サル場合」トハ抑曖昧ナル文字ニシテ之ヲ律文ノ體裁ニ適フ者  
 ト云フヘキカ又「常置委員」ノ決議ヲ經小費目ヲ流用云々「是レ恰モ常  
 置委員ハ主宰者ニシテ府知事縣令ハ其屬員タルカ如シ豈不妥ノ法  
 案ナラスヤ又此ノ如ク仔細ニ費目ヲ掲載シテ府縣會ノ議決ニ付ス  
 ルモノトセハ例ヘハ地方長官ハ五百名ノ巡查ヲ要スルニ議會ハ四  
 百五十名ニテ足レリトセハ地方長官ハ一己ノ所見ヲ以テ之ヲ如何  
 トモスル能ハス之ニ反シテ現行法ニ從フモ苟モ一地方牧民ノ長官  
 ニ任セラレタル者ニシテ巡查ノ俸給額ノ剩餘金ヲ以テ美麗ナル毛  
 席ヲ購ヒ之ヲ警察廳ニ敷クカ如キモノアランヤ又道路橋梁費治水  
 堤防費各壹萬圓ト議決シタルニ一八五千圓ノ剩餘ヲ生シ一八五千



圓ノ不足ヲ生シタルニ由リ長官ハ彼ヲ以テ之ヲ補ント欲スルモ本案ニ據レハ一々常置委員ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハス其窮屈モ亦太シト云フヘシ原來斯ノ如ク法律ヲ以テ地方長官ヲ束縛セサルモ從來各地方下付ノ議案ニハ費目ヲ細別シタル類例多シ況ヤ府縣會規則第六條ヲ以テ府縣會ハ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ異見アル時ハ之ヲ內務大藏兩卿ニ申稟スルヲ得ヘキヲ明示シタレハ地方長官モ之ヲ慎ムヘキニ於テヲヤ且判任官ノ俸給ハ國庫ヨリ支辨スルハ固ヨリ論ヲ俟タサレトモ夫ノ郡區吏員ノ俸給ノ如キハ東京府ニテハ奏任官ニ至ル迄地方稅ヲ以テ支辨スルニ非スヤ是レ猶可ナリトスルモ府縣監獄費等判任官以上ノ俸給ハ國庫ヨリ支辨スル乎均ク俸給ニシテ此ノ如キ差異アルハ亦

不都合ト云フヘシ畢竟是等ハ小費目ノ追加ニ緣由スル不都合ナルヲ以テ二十番ノ說ノ如ク之ヲ删除スルニ如カサルナリ

○安場保和一番外

費目ノ改正ニ關シテ二十番ヨリ縷々ノ駁議アリ今又

七番ノ駁說ヲ聞ケハ俱ニ一理ナキニ非サレトモ是レ此ノ案ノ最モ緊要ナル點ニシテ政治ノ得失ニ關スル至重ノ事件ナルヲ以テ再ヒ此改正ノ要用ニシテ且已ヲ得サル所以ヲ陳述セン二十番ハ今日ニ在テ議會ニ此權ヲ付與スルハ猶斗升中一合ノ滋味ヲ與フルカ如ク却テ彼カ情慾ヲ誘起シ遂ニ斗升ヲ與ヘサレハ慊シムル能ハサルニ至ルヘシ寧ロ之ヲ與ヘサルニ如カサルナリト云フト雖モ明治十一年以來各地方施政ノ針路ト府縣會力論點ノ赴ク所トヲ察シ且往々地方長官ト議會トノ間ニ紛議ヲ惹起シタル景況ヲ考フレハ此改正



ノ已ヲ得サル所以ヲ知ルニ足ルヘシ看ヨ明治十一年ニハ十二費目ニ至ル迄地方官ニ其流用ヲ委ネタリシカ爾後之ヲ禁シテ豫備費ノ目ヲ増加シタル等其間小支障ナキニ非サリシカトモ次ヲ追テ此ノ如ク議會ニ權利ヲ付與シタルハ是レ時勢ノ然ラシムル所ニシテ既ニ今日ニ在テハ牧馬ノ方法ノ如キモ議會ニテ容喙スルニ至リタレハ今又法律ヲ以テ一層議會ノ權利ヲ擴張セシメサレハ恐ラクハ平穩ヲ保ツ能ハサラン本案ノ如キ之ヲ表面ヨリ看レハ或ハ姑息ノ改正ニシテ本員等ニ於テモ敢テ之ヲ完全無闕ノ法案ナリト思考セサルモ前述ノ如キ理由アルヲ以テ今日ニ於テハ亦是レ要用ノ者タルヲ信スルナリ又七番ハ苟モ地方長官ニシテ巡查俸給額ノ剩餘金ヲ以テ美麗ナル毛席ヲ購求シ之ヲ警察廳ヘ敷ク等ノ事アラシヤト云

ヘリ固ヨリ是ノ如キ甚シキニ至ラサルヘキモ法律ニ流用ヲ禁スルノ明文ナクシテハ實際流用ヲ必須トセサル場合ニ於テモ猶之ヲ爲スモノナキヲ保ツ能ハス故ニ他日ノ紛議ナキヲ欲セハ本案ノ如ク之ヲ明掲スルニ如カサルナリ又地方長官ハ常置委員ノ決議ヲ經ルニ非サレハ小費目ノ流用モ之ヲ爲ス能ハストセハ常置委員ハ主宰者ニシテ長官ハ其屬員タルカ如シトノ說アリト雖モ既ニ行政ト議政トノ區域判然タル以上ハ憂ヒトスルニ足ラサルナリ各位モ知ル如ク該委員ハ臨時急施ヲ要スル場合ニ方リ府縣會ニ代リテ議決スルノ權ヲ有スル者ナレハ同上ノ場合ニ於テ之カ議ニ付シテ其可否ヲ決セシムレハ一ハ該委員ヲ設置スルノ主旨ニ適合シ一ハ議會ニ於テモ自己ノ名代人ノ議決シタル事項ナルヲ以テ不平ナカルヘシ又



郡區吏員ノ俸給ハ東京府ハ奏任官ニ至ル迄地方税ヨリ支辨シ府縣  
監獄費等判任官ノ俸給ハ國庫ヨリ支辨スルハ妥當ナラストノ説ア  
レトモ郡區吏員ノ俸給ハ地方税ヨリ支辨スヘキ成規ニシテ府縣監  
獄吏員等判任官ノ俸給ハ國庫ヨリ等外吏以下ハ地方税ヨリ支辨ス  
ヘキハ既ニ番外二番ノ説明ノ如クナレハ是レ亦毫モ支障ナキモノ  
トス其レ斯ノ如ク費目ノ改正ハ一害ナクシテ十益アル者ナレハ冀  
クハ本案ノ如ク可決アラントヲ

○八番 黒田 清綱 二十番ヨリ全部付托修正委員選定ノ建議アリ本官モ亦  
之ヲ賛成ス原來第一讀會ニ於テ討論ヲ爲スハ成規ニ反セルヲ以テ  
速ニ二十番建議ノ決ヲ取ラレントヲ希望ス

○十二番 東久世 通禧 二十番建議ノ決ヲ取ラル、ニ先チ茲ニ一言セン本

案ハ極メテ急施ヲ要スルヲ以テ本年ハ例規ニ拘ハラズ開院式ヲ早  
メ又之ニ先チ六日ヨリ部會ヲ開キテ之カ調査ニ從事シ反覆審査ノ  
上制定ナリタル報告書アレハ便法ニ從ヒ之ヲ以テ本案トシテ第二  
讀會ヲ開カハ更ニ委員撰定ノ煩勞ヲ要セス且議事ノ結了モ從テ急  
速ナルヘキニ由リ之ヲ第二讀會ノ議ニ付スヘキヤ否ヤノ決ヲ取ラ  
レントヲ建議ス

○二十九番 楠本 正隆 二十番ヲ賛成ス十二番ノ説アレトモ部會ニ成リタル  
報告書ハ是レ内部ノ報告ニシテ公ケノ者ニ非ス但更ニ修正委員ヲ  
撰定セハ其部會議ハ或ハ徒勞ニ屬スルニ似タントモ公私ノ別アル  
ヲ以テ亦已ムヲ得サルナリ

○七番 柴原 和 本官ハ二十九番ト同意見ナリ議案調査例規ニモ議長ハ



報告委員ヨリ提出スル所ノ報告書ヲ參考ノ爲メ各議官ニ頒布スル  
 一ヲ示セリ故ニ之ヲ以テ直ニ第二讀會ニ上セハ議事ノ體裁ヲ失ス  
 且從來第一讀會ニ於テ今日ノ如キ議論ヲ生セシ議案アルヲ見ス第  
 一讀會ニシテ既ニ斯ノ如シ其第二讀會ニ於テ討論頻繁幾多ノ日子  
 ヲ要スルニ至ルモ亦知ルヘカラサルナリ之ニ反シテ新ニ修正委員  
 ヲ設ケテ之ニ調査ヲ委托シ而シテ後チ議事ヲ開ケハ議場ノ紛議モ  
 少ク其結局却テ速ニシテ開院式ヲ進メラレタル旨趣ニモ適フヘシ  
 因テ二十番建議ノ行ハレンコトヲ望ム

○五番

佐野  
常民

決ヲ取ラル、ニ先チ一言セン夫ノ部會議ノ法ハ此回始  
 メテ設ケタル者ニシテ本官等其報告書ヲ得タルモ亦此ニ濫觴セリ  
 而シテ其報告書タル固ヨリ公然會議ニ成リタル者ニ非サレハ之ヲ

以テ直ニ議案ト爲スハ妥當ナラス然レトモ十二番建議ノ意ヲ按ス  
 ルニ原來報告書ヲ作ルニハ部會ニ於テ討議ヲ盡シタル上ナルヲ以  
 テ之ヲ本案トシテ第二讀會ニ付スヘキヤ否ヤノ決ヲ取り多數之ヲ  
 可トセハ此便法ニ從ハント云フニ在リテ夫ノ付託修正委員ヨリ提  
 出セル修正案ト雖モ多數者之ヲ否トセハ議場ニ上ス能ハス此報告  
 書ヲ第二讀會ノ議案ト爲サント云フモ亦然リ多數之ヲ否トセハ其  
 消滅ニ歸スルヤ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ乃チ十二番ノ建議ニ決ス  
 ルモ理ニ於テハ不可ナシト雖モ該報告書モ未タ完備ナラサルニ由  
 リ二十番建議ノ如ク更ニ全部付託修正委員ヲ撰定スルヲ可トス但  
 今般ノ如キ議論錯綜セル場合ニ於テハ委員モ亦一層困難ナルヘケ  
 レハ投票ヲ以テ之ヲ撰定セラレンコトヲ併セテ建議ス



○議長 二十番ヨリ全部付託修正委員撰定ノ建議アリ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十五人

○議長 多數ナルヲ以テ二十番ノ建議ニ決ス次ニ修正委員ノ撰定ハ投票ヲ以テセント五番ノ建議アリ之ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ五番ノ建議ニ決シ投票ニ依テ全部付託修正委員ヲ撰定スヘシ

○一番津田真道 幾名ヲ撰定スヘキヤ

○議長 五名ヲ撰定スヘシ

○議長 投票ノ得點三十四番榎村十四點七番 柴原十三點十九番 箕作

十三點二十番九鬼十三點二十九番 楠本九點ニシテ各多數ナルニ依

リ以上五名ヲ以テ本案ノ全部付託修正委員ト爲ス追テ其修正報告

ヲ俟テ第二讀會ヲ開クヘシ但例規ニ依レハ報告書提出後二日ヲ經

テ當ニ開會スヘキナレトモ本案ハ特ニ急施ヲ要スルヲ以テ之ニ關

セス開會スヘシ今日ハ散會セヨ

午後第三時十分閉場

左案ハ部會ニ於テ委員ノ調査セシ報告ナリ掲ケテ以テ參考ニ供ス

第二百八十五號議案中地方稅規則修正布告案並營業稅雜種

稅修正布告案調査審議ノ上別紙ノ如ク修正ヲ加ヘ度依テ理

由書相副此段及報告候也



報告委員長

明治十五年一月九日

議官 大給 恒 則 殿

議長 寺島 宗 則 殿

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第十六號布告地方稅規則中左ノ通改正ス

第一條 (戶數割)ノ下へ(若クハ家屋稅)ノ六字ヲ加フ

第二條 (種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削ル

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

俸給

一 廳費

建築修繕費

一 土木費

道路橋梁費

治水堤防費

港灣費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

衛生費

病院費



一教育費

師範學校中學校費

專門學校費

農(工)學校費

書籍館幼稚園費

一〇區町村立學校補助費

一郡區廳舍建築修繕費

一郡區役所費 吏員給料旅費及廳中諸費

俸給

廳費

一教育費

一浦役場及難破船諸費

一諸達書及揭示諸費

一勸業費

一戶長以下給料及戶長職務取扱諸費

一地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲  
換手數料現金遞送等ノ費用

一府縣廳舍建築修繕費

一府縣監獄費

俸給

廳費

在監人諸費

一府縣監獄建築修繕費



以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス若シ已ヲ得サル  
ノ場合ニ於テハ常置委員ノ決議ヲ經小費目ヲ流用ス  
ルコトヲ得

一豫備費 豫算外ニ生シタル事件ノ費途ニ充ツヘキモノ

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議  
ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ  
裁可ヲ得テ之ヲ加フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

(理由)本案第三條中小費目ヲ削除シテ單ニ大費目ヲ存スル  
所以ノモノハ大費目中更ニ小費目ヲ區別シテ互ニ流用ヲ許  
サスト爲サハ假令ハ大費目中一ノ小費目ハ贏餘ヲ生シ一ノ

小費目ハ不足ヲ生スルノ場合ニ於テ忽チ差支ヲ生シ爲メニ  
自カラ各費目ノ豫算金額ヲ増加徴收セサルヲ得サルノ恐レ  
アリ且小費目ヲ列記スルハ其數枚擧ニ違ラサルヨリ遂ニ  
遺脱スルモノアルヲ免レス然ルハ其遺脱スル所ノモノハ  
自カラ其費額支出ノ途ヲ失ヒ爲メニ在來ノ事業ヲ廢絶スル  
ニ至ルヘキヲ以テナリ然レ此小費目中又決シテ流用スヘ  
カラサルモノアルヲ以テ此ノ如キモノハ擧テ之ヲ大費目ト  
爲セリ即チ警察廳舎建築修繕費區町村土木補助費區町村  
立學校補助費ノ三項是レナリ  
一警察費中「建築修繕費」ノ上ニ「警察廳舎」ノ四字ヲ加フルハ  
掲ケテ費目ノ一項ニ列スルヲ以テナリ



一郡區役所費ノ項ヲ修正スルハ現行法ノ文ニ依ル  
 同條中以上費目互ニ流用スルコトヲ許サスノ下若シ以下  
 三十五字ヲ削除スルモノハ抑常置委員ノ性質タル地方稅ヲ  
 以テ支辨スヘキ事業ヲ執行スルノ方法順序ニ付毎ニ府知事  
 縣令ノ諮問ヲ受ケ其意見ヲ述フルト臨時至急ノ經費ヲ議決  
 スルトノ二箇ニ止ルモノニシテ議會ノ議決シタル費目ヲ左  
 右スルノ權ナシ若シ此權ヲ有セシメント欲セハ直ニ常置委  
 員ノ章程ヲ改正セサルヘカラス而テ今之ヲ改正セン乎其弊  
 百出却テ議會ノ紛議ヲ招クノ恐レアリ故ニ若シ以下十數字  
 ヲ削除シ常置委員固有ノ性質ヲ變セス以テ法律ノ分明ナル  
 ヲ要スルニ在リ

布告案

明治十三年四月第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正  
 削除ス

第一條 營業稅目左ノ如シ

商業

工業

雜業 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋傭人  
 受宿遊藝師匠遊藝稼人理髮人相撲俳優問藝妓  
 捕鳥捕獸漁業採藻ノ類

但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

第二條 雜種稅目左ノ如シ







事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

第九條中(第二條)ノ下(第三條)ノ三字ヲ削ル

右奉 勅旨布告候事

(理由)本案第一條中「營業稅云々」ヲ修正スルモノハ商工業ハ課稅スヘキノ種類ニシテ稅目ニアラサルヲ以テナリ又第二條モ之ニ準ス  
同條中「雜業」ノ二字ヲ削除シ分註ノ業目ヲ第二條ノ雜種稅中ニ移シ置ク所以ノモノハ此等ノ雜業ハ通常ノ商工業ト同シカラス却テ第二條中ニ掲タル演劇遊技場人寄席等ノ業ニ相類似スルモノタルニ因リ第一條中ニハ通常ノ商工業ノミヲ存シテ之ニ營業稅ヲ課シ右各種ノ雜業ニハ雜種稅ヲ課スル

ヲ以テ至當トスレハナリ

第二條中「國稅ノ半額以内」ノ七字ヲ削除スル所以ノモノハ都テ營業稅雜種稅ノ制限ヲ解キテ特リ船車ノミニ其制限ヲ存スルノ理由ナケレハナリ

同條中「乘馬」ノ下ノ分註「自用渡世共」ノ五字ヲ削除スルハ前項船車ノ如キモ自用渡世共ニ課稅スヘキモノナルニ特リ乘馬ニ至テ此五字ヲ存スルハ却テ疑ヲ生スルノ恐レアルニ因ル

第八條中ノ「府縣會ノ決議ニ依リ」ノ九字ヲ改メテ「第四條第五條ニ於テ」ノ九字ト爲シ即チ現行法ヲ存スル所以ノモノハ其毫モ差支ナク敢テ修正ヲ要セサレハナリ



其... 議案... 地方稅規則修正ノ儀

元老院會議筆記明治十五年一月十三日

○第二百八十五號議案 地方稅規則營業稅雜 第二讀會

議長 寺島宗則

出席議員 世一 番

- 一番番 津田 眞道
- 四番番 野村 素介
- 五番番 佐野 常民
- 七番番 柴原 和
- 八番番 黑田 清綱
- 十番番 河田 景與
- 十二番 東久世通禧



十八番 津田 出

十九番 箕作 麟祥

二十番 九鬼 隆一

廿二番 渡邊 清

廿四番 林 友幸

廿五番 大久保 一翁

三十番 岩下 方平

卅一番 伊集院 兼寛

卅二番 四條 隆訶

卅四番 榎村 正直

細川 潤次郎

○第二百八十五號議案

大正十四年十一月十日 卅六番

四十番 鍋島 直彬

内閣委員 一番 参事院議官 安場 保和

参事院員 外議官 補白根 日專

午前第十時四十分開場

○議長 第二百八十五號議案第二讀會ヲ開ク茲ニ内閣下付案ト付托

○修正委員報告案トノ二種アリ例ニ從ヒ先ツ兩案孰レヲ本案トシテ

議スヘキヤヲ定メン即チ付托修正委員ノ報告案ヲ以テ本案トスル

ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 全會一致ナルニ依リ付托修正委員ノ報告案ヲ以テ本案ト決

定ス



書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第十六號布告地方稅規則中左ノ通改正明治十五年  
月<sup>日</sup>ヨリ施行ス

第一條 (戶數割)ノ下へ(若クハ家屋稅)ノ六字ヲ加フ

○三十六番

細川潤次郎

此第一條ヲ削除スヘシ本官ハ第一讀會ニ方リテ

一議官モ此條ニ異論ナカリシヲ怪メリ本官固ヨリ一概ニ家屋稅ヲ  
課スルヲ不可トスルニアラサレトモ之ヲ刪ラントスルモノハ其遽  
興スヘカラサルヲ以テナリ抑此議論タルヤ敢テ今日ニ始マルニア  
ラス年前戶數割賦課議案ノ會議ニ際シ本官モ付托修正委員ノ一員  
タルヲ以テ反復審議セリ當時ノ論或ハ云ク戶數割ハ現住者ニ課ス

ルヨリモ其所有者ニ課スヘシト或ハ云ク戶數割ノ名ヲ變メテ家屋  
稅トナスヘシト終ニ戶數割ヲ便益トスルノ論ニ決セリ惟フニ家屋  
稅トセハ其收稅ノ多少ハ之ヲ知ラヌト雖モ輕卒ニ新稅ヲ興ス<sup>レ</sup>政  
府ノ得策ニアラサルナリ假令ヒ止ムヲ得ス之ヲ課スルト云フモ實  
際決シテ容易ナルコニアラス看ヨ條理ニ由テ之ヲ論スレハ官衙及  
公私立學校ハ家屋稅ヲ課スヘカラス醫家ノ私立病院及病人接待所  
等モ亦然リ何トナレハ官衙等ハ勿論醫家病人ノ用ニ供スル家屋ハ  
公共ノ性質アル者ナレハナリ又官衙及學校構内等ニ住スル官吏及  
教員等ヘ課スルハ妨ケナキモ彼牧牛場ノ番小屋鑛業及製造ノ用ニ  
供スル所ノ工場ノ如キハ政府勸業上ヨリ之ヲ云ヘハ亦課稅ノ限ニ  
アラサルヘシ是等ヲ分析スルハ豈容易ナラサル事業ニアラスヤ又



本官等所有ノ別荘ノ如キハ本ト奢侈ニ出ル者ナリ然ルヲ現行法ニ於テハ之ヲ課セス實ニ恠事ト云フヘシ故ニ家屋稅ヲ興スニ方テ此ノ如キハ課シ彼ノ如キハ課セス無告ノ貧民ハ免除スル等ノ事ナキ能ハス論究此ニ至レハ家屋稅賦課ノ煩雜ハ獨リ法律上ニ止マラス實際更ニ甚シキ者アラン現行戶數割稅ノ爲ニハ屢々建家ノ坪數ヲ調査スルノ煩アリ之ヲ調査スルニモ算則ヲ要スル者ナレハ幼少年若クハ女戶主又ハ算數ニ疎キ者ハ必ラス懇意ノ木工等ニ依頼セサルヘカラス又納稅ノ何タルヤ知ラス若クハ故意ニ淺薄ノ思慮ヲ回シ建坪ノ實ヲ隱シ逋稅ヲ試ル者ナキニアラス是レ尤モ惡ムヘキ所爲ト雖モ無智ノ人情ニアツテハ亦如何トモスル能ハサルナリ且ツ我國ノ家屋ハ毀壞シ易ク人ノ遷移モ亦朝夕常ナキナリ況ンヤ一

朝火ヲ失スレハ延燒數十町ニ亘リ隨テ新築等ノ事間斷ナシ是ニ由テ之ヲ觀レハ其都度當該區役所ニ届出テサルヲ得ス而シテ區吏モ亦其届書ノ確實ナリヤ否ヲ知ラント欲セハ毎戶ニ臨檢セサルヘカラス家屋稅ヲ課スルノ難キ略々前陳ノ如クナルヲ以テ法令ノ繁密ヲ要スルハ自然ノ勢ヒニテ官民ノ不便實ニ甚シト謂ツ可シ故ニ此ノ如キ稅目ハ他ニ課稅スヘキノ方法スル限リハ設ケサルヲ可トス若シ止ムヲ得ス之ヲ課スルトセハ國稅ニ編入シテ充分ニ脫稅ナキノ方法ヲ施設シ始メテ完全ノ稅法ト云フヲ得ヘキナリ前會内閣委員ノ辨明スル所ヲ聞ケハ地方稅ノ負擔重クシテ收入ノ道ナキニヨリ殊更ニ之ヲ課スト云フト雖モ物ハ全局ヲ見サレハ其可否ヲ評スヘカラス譬ヘハ土木費中ノ道路橋梁堤防修繕ハ大費目ナリ數縣ニ



八  
跨ル大川大河ノ如キハ素ヨリ地方税ノ支辨スヘキ限ニアラヌ理モ  
亦然ルヘキニアラサルヤ明カナリ然ルヲ國庫ヨリ支給セスシテ地  
方ニ分擔セシムルハ政府ノ失當ト云フモ不可ナカラン蓋シ天變地  
異ハ明智者ト雖モ豫測スヘカラサル者ニシテ一朝天變アリ大河ノ  
堤防被壞スルアラハ國庫ト雖モ支給ニ苦ムノ事アラシ然ルヲ限リ  
アルノ地方税ヲ以テ支辨セシムルハ人民ノ流離顛覆ヲ度外視スル  
ニ似タル者ナリ故ニ堤防ノ如キハ國庫之ヲ支辨スルノ法ヲ立レハ  
地方税ニ毎年著明ナル過不及ナカルヘシ然ラハ則チ何ソ家屋税ヲ  
新興スルヲ須ヒンヤ若シ地方税ノ分ハ決シテ國庫ヨリ補助スヘキ  
者ニアラストセハ非常アルニ際シ人民ノ不幸ハ如何ソヤ實ニ寒心  
ニ堪ヘサルナリ内閣委員ハ成ヘク舊慣ニ依ルト云フハ用意美ナル

九  
カ如キモ一方ニハ直ニ家屋税ノ新税ヲ課セントス豈前後其旨ヲ異  
ニスルモニアラスヤ現ニ人民ハ戸數割税ニ置ヤスルノ秋ナリ戸  
數割且然リ此際別ニ家屋ノ新税ヲ課セントセハ更ニ一層ノ怨訴ヲ  
増スハ知ルヘキノミ故ニ此改正モ止ムヘキニ止メハ可ナラン若シ  
夫レ到底改正ヲ要ストナラハ大ニ其全局ヲ改正セサルヘカラス然  
ラハ則チ本官ト雖モ亦家屋税ヲ課スルニ左袒スルモ知ルヘカラサ  
ルナリ彼佛國ノ如キハ地方税ヲ以テ國税ノ附加税トセリ眞ニ良法  
ト謂フヘシ抑課税ニ三大綱アリ曰ク兵ヲ以テ制壓スルニアリ曰ク  
法律ヲ以テ檢察スルニアリ曰ク兵ヲ養ヒ法ヲ守ラシメ以テ財產身  
體ヲ保護スルニアリ以上既ニ人民保護ノ爲ニ税ヲ課スル者ナル所  
ハ悉ク中央政府ニ納税シ而シテ其幾部分ヲ以テ州郡ノ用ニ供スル



者トスルニヨリ郡ハ州ニ超エス邑ハ郡ニ超エス大小相兼ネテ保護  
上議論上共ニ穩當ヲ保ツト謂フヘキナリ其レ然リ稅ハ悉ク中央政  
府ニ納ムル者トスルルハ即チ其收支モ亦州郡縣邑ノ制限ナキ能ハ  
ス此制限ノ事ハ後條ニ至テ論述スル所アルヘシト雖モ苟モ課稅ノ  
制限ヲ地方ニ放任スルニ至テハ納稅ハ國家ニ對スルノ義務ナリト  
云フノ原則ニ背ケリ此ノ如キ其意ハ自治ノ理ニ協フモ是小局ニ理  
アリテ大局ニ理ナキヲ如何セン之ヲ約言スレハ營業稅雜種稅共ニ  
都テ國稅アル者トシテ制限ヲ立テ以テ幾分ヲ州郡縣邑ノ費用ニ充  
ツヘシトセハ可ナルモ浪リニ地方議會ニ放任スルハ不當ナリ是レ  
本官カ家屋稅ヲ否トスル理由ナリ要スルニ本官ハ內閣委員ノ陳述  
セシ如ク此改正ハ止ムヘキニ止ムノ精神ナリ惟フニ本案ハ各地方

官ヲ召集シテ諮問シ更ニ參事院ノ討議ヲ盡シ既ニ數回ノ調査ヲ經  
タル者ナルニヨリ本官ノ說或ハ行ハルヘカラサルヲ知ルト雖モ特  
ニ平生ノ持論ナルヲ以テ反覆ヲ厭ハス論到スルト此ノ如シ論ノ行  
否ハ姑ク之ヲ措キ本官ハ此旨趣ヲ本院ノ存議錄ニ登錄センコトヲ望  
ム

○八番 黒田 賛成

○議長 三十六番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○外一 安場 保和 三十六番ノ說ハ論理其法ヲ得タリト雖モ其大改正ハ  
ナスヘシ小改正ハ寧ロナサルヲ勝レリトスト云フニ至テハ非ナ  
リ勿論大改正ハ內閣及各行政官共ニ望ム所ナルモ即時實行シ難キ  
ヲ如何セン蓋シ戸數割ヲ家屋稅トセサルルハ三府五港ノ如キ人民



輻輳ノ地ハ實ニ不平均アルヲ免カレス遂ニ收支相償ハサルノ概アリ已ニ東京府下ノ如キ其名ハ戶數割ナルモ其實ハ家屋稅ノ性質ヲ以テ課稅セリ故ニ今家屋稅トシテ之ヲ課スルモ實際ニ於テハ決シテ不可アルヲナシ是レ府知事等ノ曾テ公言セル所ナリ三十六番ノ論ハ條理上取ルヘキカ如シト雖モ實際上人民ニ幸不幸ノ不平均アルヲ以テ必ラス家屋稅トシテ所有者ヨリ徵收スルニアラサレハ所謂收稅其手數多クシテ了ニ其費用ヲ償フ能ハサルニ至ラン然レトモ今戶數割ニ換ルニ家屋稅ヲ以テシ而シテ其得ル所ノ稅額ヲ從前ニ比較スルニ若シ餘裕ヲ生スルニ至ルモ俄ニ土木等ノ事業ヲ起シ夫等ニ流用スルカ爲ニハアラスシテ第一ハ脫稅ヲ防キ第二ハ後來稅法大改正ノ楷梯トナスニアルナリ

○五番佐野常民 本官ハ第一讀會ニ於テ本案ノ大體ヲ論シ更ニ内務省編製ニ係ル地方稅賦課表等ヲ熟覽セシニ恰モ三十六番ト同感ナリ各位モ亦當ニ然ルナルヘシ蓋シ家屋稅ヲ課セントスルノ原由ハ內閣委員ノ言ノ如ク十三年第四十八號布告以來地方稅ノ負擔加重シテ地租三分ノ一トナリシモ能ク其費用ヲ辨スルヲ得ス殊ニ十五年度豫算調定ノ期迫ルヲ以テ本官モ此意ニ基キ已ムヲ得サルノ改正ハ之ヲ爲シ已ムヲ得ヘキノ改正ハ之ヲ爲サ、ラント欲ス從來土木費中ノ大費目即チ國道修繕等ノ如キ多額ヲ要スルモノハ國庫ヨリ之ヲ支辨セシニ其之ヲ地方稅ニ分擔セシメシハ昨年ヲ以テ更始トス故ニ此法案ハ縱ヒ急ヲ要スルモノナルモ後來ノ針路ヲ確定セスシテ輕易ニ之レカ改正ヲナスカ如キハ本官ノ取ラサル所ナリ又番外



一番ハ實際家屋税ヲ課セサルヘカラスト云ヘリ蓋シ其所謂實際ト  
 ハ東京府下ヲ指シテ最トシ府下人民ハ遷移常ナキニヨリ戸數割ニ  
 テハ到底脱税多キ故ニ家屋税トナサントノ精神ナルヘシト雖モ唯  
 此一點ヲ以テ直ニ課税改正ノ根據トナスハ甚タ不可ナリ何トナレ  
 ハ戸數割ト家屋税ハ其性質固ヨリ殊別ナリ即チ法案ニ戸數割若ク  
 ハ家屋税トアルヲ以テモ知ルヘキナリ夫レ苟モ一戸ヲ爲ス者ハ皆  
 是レ政府保護ノ下ニアルモノナリ豈細民ト雖モ納税ノ義務ヲ免カ  
 ル、ノ理アラシヤ然ルニ之ヲ家屋税トナスハ假令一戸ヲ爲スモ  
 土地家屋ヲ借リテ住居スル者ハ納税ノ義務ヲ免カル、ヲ得ルナリ  
 均ク政府ノ保護ヲ受クル人民ニシテ彼レハ納税シ此ハ之ヲ用ヒス  
 シテ同一ノ保護ヲ受ルノ理ハ萬アルヘカラストス蓋シ政府監督保

護上ヨリ之ヲ見レハ國税ニ納ムルモ地方税ニ納ムルモ町村協議費  
 ニ出スモ其人民ノ義務トシテ之ヲ出スノ理ニ於テハ一ナリ故ニ其  
 税ノ如何ヲ問ハス人民ヨリ政府ニ向テ公益ノ爲ニ出スノ法ハ全國  
 均一ナラサルヘカラスト然ルヲ單ニ徵收ニ易シト云フノ一事ニ因リ  
 戸數割若クハ家屋税ト掲ケ此性質相異ナルモノヲ以テ土地ノ隨意  
 ニ之ヲ收メシムルト爲スハ太タ不可ナリ若シ夫レ姑息ニ安ンセン  
 トナラハ十五年度豫算ノ期モ既ニ迫ルヲ以テ尙舊慣ニ依リ戸數割  
 ヲ以テ徵收セシムルヲ可トス且他府縣ノ如キモ既ニ區郡經濟ヲ異  
 ニスルノ法ヲ以テ前年度ノ收支ヲ經過セシモノナレハ本年度モ亦  
 之ニ從ハシムルニ何ノ不可カアラシ然レトモ戸數割ニ脱税多クシ  
 テ豫算ニ違フノ恐レアリトセハ宜ク營業税ヲ加重シテ之ヲ補ヒ他



日家屋稅賦課方法ノ確定ヲ待テ之ヲ施スヲ妥當ナリトス要スルニ  
 一戸主ノ盡スヘキ義務ト確定シタル戸數割ヲ以テ家屋ノ廣狹ニ由  
 テ其家屋ヨリ課稅スルノ方法ト交互融通スルハ立法ノ旨趣ニ違ヒ  
 政府保護ノ精神ニ悖ルナリ況ヤ政府ハ維新以來各地各様ノ稅ヲ異  
 同ナカラシムルニ熱心シ重大ナル地租改正ヲ舉行サレシ精神ニモ  
 違フニ於テヲヤ今ヤ各地各様ノ雜稅ハ一掃之ヲ整理シ大概異同ナ  
 キニ及フキニ當リ突然地方稅ヲシテ各地方官及議會ニ放任シテ各  
 地各様ナラシメントスルハ果シテ何ノ意ソ是レ政府當初ノ旨意ニ  
 背クニアラスシテ何ソヤ前陳ノ理由ナルヲ以テ本官ハ三十六番ヲ  
 贊成ス

○二十二番 渡邊

本官ハ本案ヲ可トス惟フニ本案ハ內閣委員ノ陳述

セシ如ク已ムヲ得サルノ改正ニ止マレリ即チ若クハ家屋稅ノ六字  
 ヲ加ヘシハ實ニ已ムヲ得サル者ナリ勿論稅法ハ經國ノ大本ニシテ  
 容易ニ改ムヘカラサルハ本官亦之ヲ知リ戸數割若クハ家屋稅ノ行  
 交流暢ナラサルモ亦之ヲ知ル然レトモ其不完全ノ點ヨリ之ヲ論到  
 スルハ獨リ家屋稅ニ止マラス彼ノ營業稅等ノ如キハ等ク是レ地  
 方稅ニシテ如何ナル巨額ヲ納ムル者ト雖モ代議士撰被撰ノ權ナキ  
 ナリ豈不權衡ニアラスヤ今ヤ家屋稅ヲ課セントスルモ亦是レ眞ニ  
 已ムヲ得サルナリ蓋シ其精神ハ啻ニ雜稅ノ多課ヲ防クノミニアラ  
 サルヘシ退テ地方ノ實況ヲ觀察スルニ如何ナル地方カ此ノ家屋稅  
 ヲ課スルヲ得ヘキヤ乃チ三府五港若クハ區部アルノ地方ニ限ルナ  
 ルヘシ此ノ如キ地方ニ於テハ裏店住居ノ者多クシテ夫ノ備荒儲蓄



法ノ救助ヲ受クル者モアラシ然ルヲ戸數割ヲ以テ借家ノ貧民ニモ  
 必ス課税スヘシトナスハ豈愍然ナラスヤ是レ家屋税トシテ所有者  
 ニ課スルヲ便トスル所以ナリ現ニ東京府下ハ前陳ノ實況アルニヨ  
 リ其名ハ戸數割ナルモ其實ハ既ニ家屋税ノ法ニ由レリ蓋シ是レ法  
 律ニ背クノ所爲ナリト雖モ實際然ラサルヲ得サルニ依ルナリ其郡  
 村ニアツテハ固ヨリ戸數割タラサルヘカラサレトモ區部ニ於テハ  
 家屋税ヲ至當トス某議官ハ新税ヲ興スヲ要セスト云ヘリ其所謂新  
 税トハ何ヲ指スヤ恐クハ家屋税ヲ誤解スルニヨルナラン家屋税ハ  
 決シテ新税ニアラサルナリ看ヨリ戸數割若クハ家屋税ト明示スルニ  
 アラスヤ即チ戸數割ヲ以テ適當ナラストセハ家屋税ヲ以テシ家屋  
 税ヲ不可ナリトセハ戸數割ヲ以テシ兩法其一ヲ取ルヘシトノ意ナ

ルノミ要スルニ税則ノ事ハ本官別ニ持論ナキニアラスト雖モ國稅  
 地方稅ノ稅則確定セサルノ間ハタトヒ姑息法ト云フモ此ノ如クセ  
 サルハ終ニ慣習ヲ破ルノ弊アルヲ恐ル、ナリ

○七番柴原和

本官ハ付托修正委員ノ一人ニシテ即チ下付原案ヲ賛成  
 シテ本條ヲ維持スル者ナリ三十六番ハ之ヲ削除セント欲スト雖モ  
 亦熱心ニ唱フルニアラス本院存議錄ニ論旨ヲ登錄セハ可ナリトス  
 ルニ止マレリ且二十二番既ニ三十六番ノ說ニ對シテ實際然ルヘカ  
 ラサルノ理由ヲ述ヘタルニヨリ更ニ多辯ヲ要セサレモ亦聊カ二十  
 二番論述ノ遺漏ヲ補ハント欲ス蓋シ三十六番ノ說其理論ハ間然ス  
 ヘキナキモ實際然ル能ハサルヲ如何セン茲ニ大厦アリ破損スルア  
 ラハ之ヲ修覆シテ風雨ヲ防カサルヘカラス苟モ然ラサレハ顛覆セ



シノミ此修復タルヤ改築ノ勝ルニ如カスト雖モ亦改築ノ便ヲ得サ  
 ルニヨルナリ苟モ改築ノ便ヲ得スシハ姑息ト雖モ之ヲ修復シテ其  
 急ヲ救ハサルヘカラス理或ハマサニ之ト同シキモノアラシ或説ニ  
 云ク家屋税モ國税ノ一部トシテ徵收シ國道等修繕ノ費ニ充ツヘシ  
 ト是亦理論上固ヨリ可ナリト雖モ今ヤ己ニ定マル處アリテ現ニ國  
 道モ地方税ノ負擔ニ屬シ其負擔ニ堪エサルニ由リ姑息ナカラモ家  
 屋税ヲ以テ之ヲ修復セサルヘカラス然ラズンハ國道モ國道ノ用ヲ  
 ナス能ハサルニ至ラン五番ハ家屋税ヲ要スルハ東京府ニ止ル如ク  
 論スレトモ決シテ然ラス大村落ニ至テモ家屋税ヲ便利トナス處ア  
 リ今戸數割ト家屋税トノ比較ヲ論センニ茲ニ一地方ニ於テ五十萬  
 圓ノ地方税ヲ要センニ三十五萬圓ヲ地租ニ課シ十萬圓ヲ營業税ニ

課シ五萬圓ヲ戸數割ニ課センニ此五萬圓ノ戸數割ハ其地方ノ豪家  
 道義上ノ義務トシテ小民ノ分ヲモ負擔セシモノアリ東京府下ノ如  
 キハ此道義ニ乏シ故ニ三井大丸ノ如キ豪商モ人力車挽ノ如キ賤民  
 モ均ク其負擔ヲナスナリ故ニ家屋税トナサ、レハ其平均ヲ得ルコ  
 能ハス況ヤ家屋税ト爲サ、レハ脱税ノ恐レアルヲヤ理論上ヨリ推  
 セハ十三年第四十八號布告ハ本院ノ議定ニ付スヘキ法律ナリ然ル  
 ヲ便宜布告後本院ノ檢視ニ付セラレタリ當時以テ議定ニ付セラル  
 ヲアラハ考案ナキニアラサリシ今ニ於テ遺憾ニ堪エサル所ナリ地  
 租改正モ十五年ノ期ヲ延テ十八年ニ及ヘリ今地租ヲ以テ米價ニ比  
 スレハ地租ハ百分ノ二分五厘ニシテ米價ハ壹石十圓トシ之ヲ收支  
 スルハ地租ハ恰モ百分一内外ノ薄税ナリ此輕少ノ國税ヲ以テ政



府ハ大義務ヲ果サントスルニ由リ勢ヒ地方税ニ加重セサルヘカラ  
 ス若シ夫レ姑息ナリト云フヲ以テ一概ニ塗抹シ去リ目下ノ急ヲ救  
 ハスシハ國家ハ何ヲ以テ立ツヘキヤ故ニ明治十八年マテハ假令姑  
 息法ナルモ之ヲ施行シ而シテ後國税法ヲ確定セハ可ナリ殊ニ十五  
 年度豫算ノ期己ニ迫ルヲ以テ願クハ本議ニ決センコトヲ若シ夫レ三  
 十六番ノ論說ノ如キハ本官モ亦持論ナキニハアラサルナリ

○一番津田 三十六番ノ說ヲ賛成ス内閣委員ハ曰ク本案ハ止ムヲ得  
 サル點ノミヲ改正スルナリ云ク戸數割ヲ賦課スルハ困難ナリト惟  
 フニ其所謂戸數割ヲ賦課スルニ困難ナリト云フ者ハ全國最大繁華  
 ノ東京府下ヲ指スナラン當府下ハ家ノ建坪等ヲ調査シ現ニ家屋稅  
 法ノ體質ヲ爲シテ賦課セリ其レ然リ既ニ其實アリ何ソ新ニ家屋稅

ノ名ヲ興スヲ須ヒンヤ蓋シ家屋稅ナル者ハ三十六番ノ述フル如ク  
 之ヲ大論スルハ地租ニ亞ク者ナリ一體稅ハ課シ易クシテ徵收費  
 用多カラサル者ニ課スルヲ最要トスルハ人ノ知ル所ナリ而シテ其  
 課シ易キ者ハ第一地稅第二家屋稅ナレハ家屋稅ハ國稅ト爲スモ不  
 可ナキ者ナリ然リト雖モ我邦未タ其慣習ヲ以テ家屋稅ヲ課セサル  
 ナリ惟フニ戸數割ヲ課スルニ苦シテ家屋稅ト改正スルハ東京府下  
 ノミノ政略ニ於テモ其宜シキヲ失ヘリ何トナレハ戸數割ヲ變シテ  
 家屋稅トナサハ却テ困難ヲ加フルヲ以テナリ請フ其理由ヲ述ヘン  
 抑家屋稅ト爲スハ建築中ノ者ハ之ヲ課スヘカラサルナリ歐米各  
 國ノ家屋稅モ新築ノ者ハ若干年間課稅セサルノ法アリ是レ恰モ土  
 地ヲ開拓スルニ缺下年期アルカ如キモノナリ蓋シ土地ヲ開拓スル



ニ欲下年期ナケレハ開拓者ヲ勸誘スルヲ能ハス新築ノ家屋ニ免稅ノ法ヲ設ケサレハ茅屋ヲ木造瓦石造トシ漸次改良スルノ點ニ誘導スルヲ能ハサルナリ且ヤ東京府下ノ如キハ火災ノ多キ世界無比ノ地ナリ故ニ若シ家屋稅トナシテ新築ノ者ヲ免除セントスルハ八々十五區中ノ一區火災ニ罹ルト假定スルモ十五分ノ一ヲ減シ三年間之ヲ免除スルハ五分ノ一ヲ減スルノ割合ナリ而シテ戶數割ナルモノハ直接ノ家屋稅ニアラサルヲ以テ此減額ノ虞ナキナリ聞ク府下ノ或豪家ハ既ニ家屋稅法出ルノ風說ヲ聞キ所有ノ家屋ヲ毀壞スル者アリト人情或ハ然ラン向ニ府知事家屋制限、屋上制限ノ法ヲ布キシヨリ熱鬧ナル神田區ノ如キモ火災後原草茫々ノ看ヲ爲セリ屋上制限尙然ルノ今日ニ際シ家屋稅ヲ課セハ府ノ中心ナル京橋日

本橋區即チ課稅ノ大目的タル兩區ノ如キモ殆ント反對ノ結果ヲ見ルヘシ故ニ東京府下ノミノ政策上ニ於テモ不可アリテ可ナシ當ニ論理ノ然ルノミナラス本案文章上モ亦不妥ナリ付托修正委員モ文章ノ不妥ヲ憂ヘテ戶數割トスル乎家屋稅ト爲ス乎ヲ定ムルハ地方官ニアル乎將タ議會ニ在ル乎ニ付テ意見書様ノ案ヲ起草セシニアラスヤ故ニ之ヲ削ルトキハ一舉シテ兩得アリト云フヘキナリ左案ハ付托修正委員ヨリ報告書ニ添ヘテ提出スル所ノ者ナリ掲ケテ以テ參考ニ供ス

## 意見書

今般下付ノ議案地方稅規則中第一條第三項戶數割ノ下へ若クハ家屋稅ノ六字ヲ加ヘラレタル處其戶數割トスルカ家屋稅ト



スルカハ府知事縣令之ヲ定ムルカ將タ府縣會ニ於テ之ヲ議定  
スルカ其境界判然ナラス然ルニ内閣委員ハ無論府縣會ノ議定  
ニ任スヘキモノト辨明セリ果シテ然ラハ豫メ明文ヲ以テ之ヲ  
示サ、レハ遂ニ府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ紛議ヲ生ス  
ルヤ必セリ因テ冀クハ府縣會ニ於テ之ヲ議定スヘキ旨別段ノ  
布達アラシコトヲ此段意見提出候也

○議長 時午ヲ過クルヲ以テ暫時散會スヘシ  
午後零時十分閉場

午後第一時三十分開場

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○二十番九見 一 本官ハ原案ヲ可トスルニヨリ三十六番五番一番等ノ

反對說ニ對シテ一辯センヤ欲ス三十六番ハ家屋稅ヲ課スルハ道理  
ニ悖リ實際ニ適セス特ニ煩雜ヲ増加スト論スレトモ煩雜ノ點ヨリ  
論到スレハ戶數割モ亦然リ況ヤ戶數割ハ脫稅多クシテ豫算ニ齟齬  
ヲ與フルハ現ニ内閣委員ノ説明スル如キモノアルヲヤ又新稅ヲ興  
スト云ヒ或ハ地方議會ニ於テ稅ヲ多課スト云フカ如キハ尤モ解ス  
ヘカラサルモノナリ我邦議會創設以來ノ現況ヲ見ヨ議會ハ減稅ヲ  
好シテ增稅ヲ嫌フノ風潮アルニアラスヤ是レ獨リ我邦ノ議會然リ  
トスルニアラス外國ノ歴史ヲ按スルモ國會ニ於テ稅ヲ多課スルコ  
ト好ム者ナシ其稀ニアル者ハ黨派ノ競争過激ナル時ヲ然リトス此  
ノ如ク議會カ減稅ヲ欲スル所以ノ者ハ乃チ人民ニ直接ナルニヨル



ナリ且本案家屋税ノ一目ヲ加ヘシハ元ト増税ヲ以テ目的トスル者  
 ナレハ自ラ多少ノ増税ヲ免レサルナリ東京府ノ如キハ既ニ其名ハ  
 戸數割ナルモ其實ハ家屋税ノ性質ニ因テ賦課セリ然ラハ則チ今此  
 家屋税ノ名ヲ下スハ畢竟其名ヲ正スニアルノミ去年東京府會ニ於  
 テ九十八萬圓ノ豫算額ヨリ十萬圓ヲ減セシモ眞ニ理由アリテ然ル  
 ニアラヌ唯夫ハ商法講習所及ヒ中學校ヲ廢セント欲スルニ因リシ  
 ナリ而シテ該議會ニ於テモ一ハ中學ヲ存シテ商法講習所ヲ廢セン  
 一ヲ主張シ一ハ商法講習所ヲ存シテ中學ヲ廢セント欲セシモ其極  
 遂ニ兩ツナカラ相廢スル所至レリ世人之ヲ評シテ私黨ノ爭ナリト  
 云ヘリ蓋シ當ラサルナキニ庶幾ランカ此一事ヲ擧グルモ議會ノ減  
 税ヲ好ムハ類推スヘキナリ又國稅增加論ノ如キハ本官モ亦自ラ説

アリト雖モ今地方稅中ニ一ノ家屋稅目ヲ置クモ府知事縣令ノ考案  
 ヲ以テ戸數割若クハ家屋稅トシテ議案ヲ議會ニ下付スル者ナレハ  
 議會ハ其地方ニ適スルノ一ヲ取テ之ヲ徵收スルニ何ノ不可カ之ヲ  
 又ルヤ要スルニ本官ハ國稅ノ增加ヲ欲スル論者ナルヲ以テ家屋稅  
 ノ三字ヲ置クヲ可トスルナリ

○十九番 案作 購辦 三十六番ハ歐米各國ノ例ヲ引証シ來テ十三年第四十  
 八號布告ヲ以テ課稅ノ大體上ヨリ論舉スルハ其說ニ於テ間然スル  
 所オキモ本官ハ已ムヲ得ス本案ヲ贊成セサルヘカラサルモノアリ  
 何トオレハ之ヲ實際ニ徵スルニ戸數割若クハ家屋稅トナスハ地  
 方廳及ヒ議會ノ便宜ハ論ヲ待タサルコトニテ第一政府ノ便宜タル  
 恰モ十三年地租五分一ヲ二分一以内ト改メシト其理ヲ同ウスレハ



ナリ夫ノ地租改正ノ實施ヲ更ニ十八年マテ延期セシハ偏ニ仁政ノ如クナルモ今日ノ財政上ヲ顧レハ歲入ハ依然トシテ歲出多キヲ加メ金貨ハ濫出シ紙幣ハ落價シ而シテ物價ハ益騰貴スルヲ以テ已ムヲ得ス國道修繕等ノ事ヲ地方政事ニ分任セシメタリ況ヤ新刑法治罪法等實施スルノ際ナレハ國費ハ多々益加ハリ序次ヲ以テ將來ノ經濟ヲ説クニ違ナク焦眉ノ急ヲ救フノ務メニ切ナルアルヲヤ然ラハ則チ家屋稅ヲ國稅ニ編入セン乎俄然習慣ナキノ稅ヲ課スレハ必ス人民ノ不平ヲ起シ民心ヲ失フノ恐レアリ故ニ國會ナキノ國ニ於テハ國稅ヲ興スハ須ラク序次鄭重ヲ加ヘサルヘカラス今之ヲ以テ地方議會ニ任スルトキハ人民ニ於テ或ハ不滿ノ意ナキニアラサルモ既ニ自己ノ撰擧ニ係ル代議士ノ決議ニ成ル者ナレハ其不滿モ亦

自ラ稀薄ナルヘシ是レ行政上ノ便益ニシテ政略上ノ得策ナリ蓋シ其本體ヲ云ヘハ國稅ヲ先キニシテ地方稅ヲ後ニスルヲ以テ順序宜シキヲ得タルモノトスルモ目下ノ急其然ル能ハサルヲ何如セン故ニ姑息法ノ如キモ亦本案ノ如クナラサルヘカラス況ヤ東京大阪等ノ如キハ實際家屋稅ノ性質ヲ以テ戶數割ヲ課スルアルニ於テヲヤ此ノ如キノ現況ナルヲ以テ三十六番ノ說ハ聞クヘキモ行フ能ハストスル所以ナリ

○二十二番 渡邊清 本官向ニ區ハ家屋稅トナリ郡ハ戶數割トナルヘシト陳述セリ今更ニ之ヲ確實ニスレハ區ハ家屋稅トシ郡ハ戶數割トナサルヘカラス蓋シ郡ハ貧富ノ懸隔甚タ少ナク區ハ其差甚タ多シ何トナレハ郡民ハ勤勞シテ奢ラス故ニ一般ニ富メリ區民ハ逸ス



ル者多ク居所ヲ遷移スル者多ク貧民モ亦隨テ多シ故ニ從來戸數割  
 ノ法ハ郡區自カラ之ヲ異ニセリ本官向キニ地方ニ奉職スルノ日某  
 士族窮シテ父子兄弟一時ニ屠腹セシ者二戸アリ此ノ如キハ平民ナ  
 ラハ或ハ救助ヲ求メ若クハ乞兒トナルヘキモ身ノ士族タルヲ以テ  
 事此ニ至リシモノナルヘシ豈憫然ニアラスヤ又區ハ地稅少ナキヲ  
 以テ家屋ニ就テ徵收スルヲ必用トズ然ルニ之ヲ督促スルモ納ムル  
 不能ハサル者アリ而シテ其情ヲ察スレハ眞ニ憫諒スヘキ者ナリ然  
 レドモ法ニ戸數割トアル上ハ必ス之ヲ完納セシメサルヘカラス故  
 ニ縱ヒ其徵收方ニ巨額ノ金ヲ費スモ之ヲ督促セサルヘカラス隨テ  
 其手數ノ費用決シテ相償ハサルノ實アリ此ノ如キノ實況アルカ故  
 ニ法ハ美ナルモ施行上ニ害アリ是レ改正セサルヘカラス所以ニ

シテ乃チ本案ノ出ル所以ナリ若シ又現行稅法ヲ不充分トセハ固ヨ  
 リ之カ改正ヲ期スヘキモ其之ヲ遂成スルニ至ルノ間ハ良シヤ姑息  
 法トスルモ止ムヲ得ス行ヒ易キニ就キ其適度ヲ量リ浪費ヲ省キ無  
 産ノ人ヲ甚シメサルヲ以テ得策ナリトス況ヤ今日ノ如ク戸數割ノ  
 名ヲ以テ其實家屋稅ノ法ニ倣ヒ若シ人民ヨリ法律ニ違背スト云ハ  
 何ノ詞カ以テ辯解ヲ下スヘキ各位切ニ實際ニ注意セラレシトテ  
 企望ス

○五番佐野常民 本官カ家屋稅ヲ不可トスル所以ハ法律ト收稅トノ精神  
 上ニアルナリ惟フニ全國一政府ノ下ニアル人民ハ保護ト義務トニ  
 輕重アリトスルモ素ト是レ遁ルヘカラス與ヘサルヘカラス者ナ  
 リ今田舎ハ戸數割トシ都會ハ家屋稅トスヘシト云ハ、譬ヘハ此ニ



田舎人ニシテ東京ニ來ラハ如何ナル美宅ニ借住スルモ納税ノ義務ヲ遁レ東京人ニシテ田舎ニ往ケハ如何ナル粗宅ニ住スルモ戸數割ノ義務ヲ負ハサルヘカラストスル乎豈此ノ如キ理アルヘケンヤ抑借家人ハ遷移常ナラサルヲ以テ收税ノ額ニ對シ違算生シ易シトスルハ收税者ニ於テ其徵收ノ方法ヲ講究スル未タ到ラサル所アルヲ以テ然ルナリ若シ夫レ借家人ニ逋税多シト爲サハ宜シク家屋所有者ニ令シテ之ヲ代徵セシムルモ可ナリタトヒ極貧ノモノナレハトテ一年ニ五錢乃至十錢ヲ納ムルヲ以テ爲ニ餓死スルニ至ルト云フノ憂ヒハ決シテアルヘカラスト前ニ一番ノ言ノ如ク我東京ハ世界無類ノ大火アルノ地ナレハ千戸ヲ燒カハ忽チ千戸ノ家屋税ヲ減スルナリ特ニ三十六番ノ言ノ如ク直ニ新築ノ家屋ニ課セストセハ其全

體ノ減税ニ至ルヤ知ルヘキナリ故ニ税額ノ多少ヲ論スレハ最上限ト最下限トヲ畫シテ可ナリ若シ夫レ差等ヲ立ル能ハスト云ハ、營業税雜種税ノ如キモ亦然ラン之ヲ要スルニ一東京府ニ於テ戸數割賦課ノ方法ニ困ムノ建議ヲ採用シ爲ニ全國一般ニ影響ヲ及ホスハ策ノ得タルモノニアラサルナリ元來家屋税ハ借家人ヲシテ間接ニ納税セシムルノ主義ナルハ苟モ日本全國ニ於テ其米粟ヲ食フ者ハ地租ヲ政府ニ納ムルト云フニ同シキナリ是レ家屋税トナサハ其所有者ニ於テ家税ヲ増加スルヲ以テノ故ナリ彼戸數割ヲ以テ國税ニ編入スル如キニ至テハ深ク廟議ヲ盡サ、ルヘカラスト今日ニ於テハ現行法ニ因ルニ些ノ支障アルコトナキヲ信スルナリ

○安場保和 現問題ハ本案改正ノ要點ナルヲ以テ充分ニ辯明セサ



ルヘカラス若シ現問題ヲシテ勝ヲ制セシメハ其實際ヲ如何セン某  
 議官ノ稅ハ取リ易キニ就テ取ルト云フハ即チ本案ヲ助クルノ說ナ  
 リ二十三番ノ說ノ如ク凡戶數割ノ法律出テヨリ以來其郡村ニ在テ  
 現ニ其法ヲ實行シテ差支アルヲ見ス是レ從來ノ慣習ニヨル者アル  
 ニ由テナリ然レトモ全國ヲ通觀スルトキハ其多部ヲ戶數割トシ其  
 少部ヲ家屋稅トスルハ最モ彼是便宜ヲ得ルモノトス夫ノ稅ハ取リ  
 易キニ就テ取ルト云フモ蓋シ此ニアルナリ故ニ東京府會及府知事  
 ハ切ニ家屋稅トスルノ便宜ヲ建議シ内務卿モ亦之ヲ可認シテ政府  
 ニ上申セリ是レ都下ノ現勢ニ由テ然ルナリ而シテ今家屋稅トシテ  
 之ヲ徵收セハ僭家人ノ如キモ亦間接ニ納稅スルノ實アリ素ヨリ郡  
 村ノ如キモ貧富ノ別ナク悉ク戶數割ヲ課スルニアラス其各ハ戶數

割タルヲ以テ平等均一ナルガ如キモ其實道義上ニ於テ法律ヲ助テ  
 富者ハ自テ貧者ノ分ヲ代辨スル者亦甚タ多キナリ  
 ○三十六番 細川潤次郎 聞ク處ノ駁撃論ハ悉皆無方ニシテ未ダ以テ本官  
 ノ說ヲ動かスニ足ラサルナリ反對論者ハ稅ハ徵收シ易キニ課スヘ  
 シト云ヘリ其レ然リ苟モアダムスミ氏ノ經濟書一部ヲ讀ム者ハ  
 皆之ヲ知ル然レトモ單ニ稅ハ徵收シ易キニ課スルノ語ヲ株守スル  
 ハ所謂膠柱鼓瑟ナリ何トナレハ若シ該語ヲ守株シテ活用ヲ欠カハ  
 或ハ收稅員ヲ人家ニ派出セシメ而シテ其人家ノ金庫ニ就テ之ヲ調  
 査シ若シ其收積スル所百圓金アルトセハ乃チ内十圓金ヲ收得セシ  
 ムヘシト云フノ點ニ至ルヘシ又地方官ニ委スルニ便宜收稅ノ權ヲ  
 以テセハ最モ徵收ニ易ヤタルヘシ猶ホ取リ易キノ一例ヲ舉シニ彼



ノ人頭税ノ法ヲ以テ徴收セハ百萬人アラハ乃チ百萬圓ヲ徴收スルヲ得ヘシ苟モ税ハ徴收シ易キニ課スト云フノ主義ナラハ何ソ家屋税ノ如キ徴收シ難キニ就キテ而シテ人頭税ノ徴收シ易キニ就カサルヤ凡是等ノ説ハ年前本官論述シテ載テ議事筆記ニアリ就テ見ルヘシ蓋シ家屋税ノ如キモ其方法宜シキヲ得ハ或ハ可ナルヘキモ今日ノ方法ヲ以テ直ニ家屋税ハ徴收シ易シト云フハ抑思慮ノ足ラサルモノト云フヘシ本案第二條營業税ノ制限ヲ解クカ如キモ全ク放任主義ニシテ地方ヲ信用スルノ厚キニ過キタリト云フヘシ若シ地方ヲ信用スル此ノ如クンハ何ソ地方税規則ヲ要センヤ乃チ適宜徴税ノ權ヲ委任シテ可ナルノミ既ニ改正ヲ止ムヲ得サルニ止ムト云ハ、何ノ故ニ舊慣ヲ棄テ、新法ヲ立テ其制限ヲ解クヤ苟モ制限ヲ

解クトセハ家屋税モ亦然ラサルヲ得サラン請フ夫子其徳ヲ二三ニスルコナクシテ一ニ茲ニ居レ反對論者ハ頻リニ實際々々ノ言ヲ吐ケリ其所謂實際トハ机上ノ實際ナルカ何トナレハ本官等ヲシテ信用セシムルノ實際ニアラサレハナリ又姑ク信用スヘキノ實際ト假定スルモ是恒久不變ノ者ニアラサラシ何トナレハ當局者ハ迷ヒ傍觀者ハ明ナリト云フノ實アレハナリ其證據ヲ舉レハ今日ニテ本條ノ不可ヲ鳴ラセシ議官ナキニ本官一タヒ口ヲ開イテ之ヲ論舉セシヨリ忽チ數多ノ賛成ヲ得タリ是レ或ハ當局者ハ迷ヒ傍觀者ハ明ナリトノ謂ナラシ乎將タ愚者モ千慮ニ一得ノ謂ナル乎内閣委員ハ脱税防禦ヲ必要トスルカ如ク論到スルモ脱税ヲ防クニハ他ニ方法ナキミアラス茲ニ金ヲ人ニ貸スモノアラシニ其貸スニ方テヤ必ス先



ツ返金ノ方法ヲ定ムヘシ返金ノ方法ヲ確定セシテ金ヲ貸ス豈返  
 金ヲ望ムヘケルヤ此理恰モ之ト同シ戸數割ニ脱税多キヲ憂ヘハ何  
 ヲ斷然之ヲ廢止セサルヤ又法律ハ成ヘク舊慣ニ由ルヲ可トセハ何  
 ヲ家屋稅ヲ興スヤ況ヤ主任官ハ現ニ戸數割ヲ徵收スルヲヤ且或議  
 官又說ニ地方議會ハ減稅ヲ好ムト云ヘリ其レ或ハ然ラシ然レトモ  
 新稅ヲ興スト云フハ日本全國ニ向テ發スル論題ナレハ素ヨリ地方  
 議會ノ徵稅ノ増減如何ニ關セサルナリ且地方議會ノ景況ヲ觀レハ  
 畢竟地方廳ヨリ下付メ議案ハ掛直アリト云フ先入心ヨリシテ減額  
 論ヲ發スルモノナリ然レモ其減額ヲシテ大ナラシメハ地方官ハ更  
 ニ行政上ニ手ヲ出スコ能ハサラン素ヨリ議會ノ議決ヲ認可スルト  
 認可セサルトノ權ハ行政官ニアリトスルモ今家屋稅ノ如キ者ヲ興

又件ハ議會ト地方官トノ葛藤ヲ増加スルハ知ルヘキナリ而シテ家  
 屋稅ヲ國稅ニ編入セサルヘカラストナスハ本官ノ宿論ナリ然ルニ  
 今日ハ先ツ之ヲ地方稅中ニ置キ後日ハ後日ノ都合ニ依ランノミト  
 マ説ヲ如キハ咄々怪事ト謂フヘシ蓋シ今ニシテ立法ノ順序ヲ誤リ  
 該稅ヲ以テ地方稅トナシ二三年或ハ十年ヲ經過スルノ後更ニ慣習  
 ヲ一變シテ之ヲ國稅ノ部ニ入レシトスルカ如キ果シテ遂成スルヲ  
 得ベキヤ現ニ地租三分一ノ地方稅ヲ徵シ更ニ又之ニ均シキ家屋ノ  
 國稅ヲ徵セハ人民ノ豫算生計ハ果シテ違ハサルヲ得ヘキヤ本官ハ  
 決シテ其得ル能ハサルヲ信スルナリ

○三十四番 正 榎村 本官ハ報告委員ノ員ニ具ハリ調査ノ際ニ方リ家屋  
 稅ノ一項ニ於テ竊カニ考フル所アリシモ其調査モ大ニ至急ヲ要セ



シヲ以テ終ニ鄙見ヲ陳述スルヲ得サリシ然ルニ今三十六番ノ削除  
 ○論ヲ聽クニ其主義實ニ吾心ヲ得タルモノナリ或議官ハ貧民ニ戸數  
 割ヲ課スルハ忍ビサル所ナリト論スレトモ從來ニ於テモ其忍ヒサ  
 ルヲ以テ現ニ之ヲ免除セリ要スルニ家屋稅ハ乃チ新法ナリ而シテ  
 其實行スルヤ必ス又困難ナルヲ知ル何トナレハ其實行シ難キハ家  
 屋ノ廣狹ヲ調査スルノ紛糾ナルノミニアラスシテ今日ニ在テハ家  
 屋ノ製造如何衛生上ノ利害如何又火災豫防ニ如何等ノ事物ニ關シ  
 テ改良セサルヘカラサルノ秋ナレハナリ此ノ如キ改良ヲ望ムノ秋  
 ニ際シ突然此稅ヲ興ス如クシハ建家ハ從前ニ倍シテ粗惡ニ赴カレ  
 コヲ恐ル故ニ此ノ如キ課稅ヲ興スハ其方法ヲ講究スルノ後ニ非サ  
 レハ不可ナリトス乃チ三十六番ヲ贊成ス

○外二番白根 三十六番ノ論ハ各位既ニ駁撃シテ勝サ、ルヲ以テ更  
 ニ辯ヲ費サルモ今三十四番ノ言ニ對シテハ一鞭ヲ加ヘサルヘカ  
 ラス三十四番ハ家屋稅ヲ興ストキハ石造ハ變シテ木造トナリ木造  
 ハ變シテ草廬トナリ遂ニ建築學ノ退歩ヲ來タスカ如ク痛論スレト  
 モ是レ太ダ智慧ナキノ論ナリトス何トナレハ稅アル者ハ衰フト云  
 フノ理ナキヲ以テナリ若シ稅アル者衰フト云ハ、彼ノ營業稅アル  
 カ爲ニ三井大丸ノ如キハ露店トナラサルヘカラス本員ハ斷シテ知  
 ル物ハ稅アルカ爲ニ衰ヘサルヲ又衛生上ニ付テモ家ノ粗惡ヲ惡  
 ミ身體ノ不健康ヲ嫌フハ人情ナレハ其粗惡ヲ顧ミス不健康ヲ厭ハ  
 スシテ建家スル者ハアラサルヲ信ス又學校若クハ公共ノ用ニ供ス  
 ル家屋ヲ免稅スルハ地方官及ヒ議會ノ指定ニヨルヘシ且ヤ家屋稅



ヲ新稅ト云フモ東京大阪等ハ現ニ家屋稅ノ性質ヲ以テ徵稅セリ其  
 他各地方共ニ戶數割ヲ徵スルノ順序ハ家ノ建坪或ハ地價等ニヨラ  
 サルハナシ故ニ家屋稅ノ文字ハ新ナレトモ其實ヲ云ヘハ從來施行  
 スル所ノモノト毫モ違フコナキナリ此ノ如ク論究セハ議者或ハ云  
 ハン果シテ然ラハ何ソ新タニ家屋稅ノ字ヲ掲クルヲ須ヒンヤト然  
 リト雖モ課稅ハ素是レ都鄙ノ別ナカルヘカラス故ニ現ニ郡村ハ家  
 屋稅ノ性質ナキモ都會ハ既ニ其實アリ是レ特リ脫稅ナカラシメン  
 カ爲ノミナラス乃チ得失相償ハサルニ由テナリタトヒ得失相償ハ  
 サルモ必ス都鄙ヲ一ニスヘシトノ理ハ萬アルヘカラサラシ若シ之  
 ヲ一ニセサルヘカラストセハ喩ヘハ十錢金ヲ徵スルニ一萬圓金ヲ  
 費スモ必ス徵收セサルヘカラサルニ至ラン豈此ノ如キコトアラシ

ヤ要スルニ稅ハ徵シ易キニ徵シ宜シキニ支消スルヲ效能トスルナ  
 リ然ルヲ國家ノ保護ヲ受クル者ハ一人ト雖モ免稅スヘキノ理ナシ  
 トシテ本案ヲ破ラントスルハ抑本員ノ惑フ所ナリ

○三十四番 榎村  
正直

番外二番ハ或ハ本官ノ陳述ヲ誤解スルニアラサル

ナキヲ得ンヤ本官ハ單ニ家屋稅ヲ不可トスルニアラス其賦課方法  
 ノ如何ヲ不可トセシナリ乃チ三十六番ノ述ヘシ如ク建築宜キヲ得  
 衛生其他ニ可ナリトセハ或ハ其稅ヲ減免スル等ノ事ナキ能ハサラ  
 ン若シ此ノ如キ方法ヲ立レハ本官亦何ヲカ云ハン本官ハ家屋稅ヲ  
 與スカ爲ニ家屋ハ直ニ粗造ニ赴クヘシト云フニハアラサルナリ又  
 物ノ稅アルカ爲ニ衰ヘサル等ノ事ノ如キモ知了スル所ナリ番外二  
 番ハ本官ヲ目シテ智慧ナシト云本官ハ實ニ智慧ナキ者ナリ然レモ



世間本官ニ均キ智慧ナキノ徒アリ若シ家屋税ヲ賦課セハ其方法ヲ失フアラシクモノナキヲ保スヘカラス我邦ニハ尙本官ニ均キ智慧ナキノ徒實ニ多キナリ

○七番柴原和

三十六番陳述ノ大要ハ云ク家屋税ハ國稅トナスヘシ云ク土木費中ノ道路橋梁堤防修繕等モ亦國庫ヨリ支給スヘシ云ク一度家屋税ヲ地方稅トナスハ國稅ニ變スルコト難シト本官ハ稅法ノ大改正ヲナサル間ハ大概ニ止メテ可ナリト思考ス我國ハ漸次國會ヲ興スノ順序ニシテ此國會議員ハ必ス各地方ヨリ來集スルモノナリ而シテ其議員タルタトヒ土地ヲ有セサルモ營業稅年々三四百圓ヲ納ル、者ハ乃チ議員トナルヲ得ル等ノ方法モ亦ナキ能ハサル此時ニ方リ地方稅ヲ變シテ國稅トナスハ實ニ易ヤタルコトナ

ルヲ信ス又材木稅等ヲ興シテ國稅トスルモ亦得ヘキナリ今日ノ如ク十箇ノ土藏ヲ所有スルモ營業稅ヲ納ムルノミナレハ議員タルコト能ハストナスハ實ニ方法ノ宜シキヲ得タル者ニアラサルナリ論者ハ家屋稅ヲ以テ新法ナリト言フト雖モ舊幕府ノ時モ小間割ナル者アリテ恰モ家屋稅ト一般ナリ現ニ興サントスル家屋稅ハ即チ舊法ヲ斟酌スル者トス本官ノ如キモ二階家ヲ有セリ向キニ區役所ヨリ建坪ヲ調査セント欲セシニヨリ之ヲ拒絕セシモ遂ニ已ムヲ得ス其意ニ從ハサルヲ得サリシヨアリ是其實際ナリ三十六番ハ實際ヲ好マサルノ論者ナリト雖モ已ニ此實際アルヲ如何セン故ニ家屋稅ノ字ハ新ナルモ其實ハ舊法ナレハ決シテ之ニ新法ノ名ヲ下ス丁能ハス例ヘハ貸長屋ヲ建テ營業ヲナスモソアリ是レ乃チ商法ナリ此商



法家ニシテ納税セサルハ所謂營業税ヲ遁ル、者ト云テ可ナリ豈不  
 條理ノ甚シキ者ナラスヤ又東京ハ火災多シト云フ一部ノ説ヲ以テ  
 各地全部ニ之ヲ類推スルハ最モ不可ナリ東京ニ大火アラハ臨時會  
 ヲ起スモ可ナリ現行府縣會規則第壹條ニモ「府縣會ハ地方税ヲ以テ  
 支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス」トアリテ其方法ハ  
 地方官ト議會トノ指定ニアリ三十六番ハ一ヲ知テ二ヲ知ラサルノ  
 論者ナリ又三十四番ハ委員ノ一人ニシテ今忽チ變説セリ本官ハ三  
 十四番ヲ目シテ智慧ナキ人トハ認メス却テ多智多才ノ人ナリト揚  
 言セサルヘカラス思フニ此人ニシテ委員會ニ方リ其所見ヲ陳述セ  
 サリシモノハ其能ハサリシニ非スシテ故ヲニ陳述セサリシナラン  
 蓋シ是レ智餘リ有テ此ニ至リシモノニシテ乃チ本官カ多智多才ト

揚言スル所以ナリ要スルニ徵收方法ハ政府之ヲ命令セサルモ地方  
 官必ス宜シキヲ斟テ布達スルアラシク

○議長 三十六番ノ動議ニ同意者ハ起立スヘシ  
 起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ三十六番ノ修正ニ決ス  
 書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條(種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削ル  
 卅六番 細川潤次郎

○五番 佐野常民 本案及制限ノ三字ヲ削ルハ十三年第四十八號布告ニ由  
 テ然ルナルヘシト雖モ亦之ヲ地方ニ放任シテ毫モ區域ヲ示サ、ル  
 ハ不可ナリ某議官ハ地方議會ハ減税ヲ好ム者ナリト論スレトモ既



ニ地方ノ議決ニ任セシ十四年度營業稅ノ課額ヲ見ルニ法律ニ示ス所ハ十五圓ナリ然ルヲ議會ハ之ヲ増減シテ乃チ東京府ハ營業稅千五百圓ニ上リ工モ亦同シ京都府ハ營業稅百圓製造所モ亦同シ而シテ工ハ唯五圓ノ最多限ヲ示セリ苟モ稅ヲ課スルニ東西此ノ如キ大差アリテ可ナルヘキヤ前年内閣委員ハ職工ニ課稅スルハ政府ノ意ニアラスト陳述セシコトアリ爾後地方ノ適宜ヲ以テ職工ニ課スヘシトシテ十五圓ノ制限ヲ立テシニ東京府ハ増シテ千五百圓トシ京都府ハ減シテ五圓トナセリ蓋シ京都府ハ西陣織等ノ職工ヲ以テ立ツニ由リ之ヲ勸誘シ東京府ハ商業ヲ以テ立ツニ由リ然ルナルヘシトスルモ實際職工ノ賃金ノ如キハ東西此ノ如キ大差アル者ニアラサルナリ我邦ノ工業タル未タ政府ノ保護ヲ仰カスシテ立ツ者アル

ヲ見ス夫ノ王子ノ製紙場ノ如キ政府ノ保護ニ由テ漸ク得失相償フニ至レルアルノミ現ニ此ノ如キノ形象ナルニ早已ニ千五百圓ノ最多限ヲ課スルニ至ルハ千思萬考スルニ到底其意ノ在ル所ヲ知ル能ハサルナリ蓋シ營業稅ヲ課スルハ其地ノ冷熱如何其業ノ大小如何ト彼此比較スルニアラサレハ標準ヲ立ル能ハス故ニ會社ヲ百圓トセハ製造所ハ五十圓職工ハ十五圓ト爲スカ如ニ比較ヲ以テ之ヲ立レハ或ハ大差ナカラシカ本官内務省所製ノ府縣課稅表ヲ一見シテ其差違ノ甚シキニ吃驚セリ制限決シテ解クヘカラス且夫レ濯澤三井等ノ如キヲ見ヨ如何ナル巨額ノ營業稅ヲ納ムルモ議員タル能ハサルニ非スヤ此ノ如キハ縦ヒ其納ムル所ハ地方稅ナリト云フモ須ラク參政權ヲ與フルニ至ラサレハ不可ナリ然リト雖モ慢ニ納稅者



ヲ以テ直ニ參政權ヲ與フト云フニアラス何トナレハ納稅者ヲ以テ悉ク參政權ヲ與フモノトセハ彼ノ俳優ノ如キモ亦議員タルヲ得ルノ權アレハナリ故ニ正業ノ徒ハ議員タルヲ得正業ニアラサル者ハ稅ヲ納ムルモ議員タルヲ得サルトノ區別ヲ立置クハ前途政治ノ方針自ラ定マリ而シテ目下ノ利害ヲ察シ其業ニ就テ之ヲ取捨セシムルノ法ヲ制シ之ヲ全國一般ニ及ホスモノトセハ可ナラン故ニ「及制限」ノ三字ヲ削ルハ不可ナリ抑稅額ニ制限ヲ立ルハ甚タ難事ニシテ政府且見ル能ハス況ヤ人民ヲヤ然レトモ今日ニ在テ其最多限ヲ十五圓ト定ムルハ過少ナリトス何トナレハ十三年第四十八號布告ニ由リ止ムヲ得ス地方稅ヲ増サ、ルヲ得サルノ情由ヲ生スレハナリ況ヤ又已ニ地租收入ノ減スルアルヲヤ故ニ地租モ亦増サ、ルハ

カラス地租ヲ増サハ營業稅モ亦増シテ三十圓若クハ五十圓トナスヘキナリ蓋シ地方ノ文物賑々トシテ日ニ進ムノ狀勢ナレハ夫ノ三年前ニ十五圓ヲ徵シ今ヤ五十圓ヲ徵スルモ實際決シテ其經濟ニ害ヲ來タスコ無カラシ但東京府大阪兵庫共ニ現ニ徵收スルノ實迹ニ由リ其制限ヲ百圓トスルモ可ナリ若シ之ヲ他府縣ニ比較シテ顧慮スル所アラハ折半シテ五十圓ト制限ヲ立ルモ大ナル過不及ナカラシカ而シテ卸賣ヲ五十圓製造所ヲ三十圓職工ヲ十五圓トセハ明治十一年立法ノ主旨ヲ繼キ各地方モ亦各様ノ課稅ナカルヘシ論者或ハ云ン若シ五十圓トセハ二十圓ニテ足レリトスルノ地方モ必ス五十圓ヲ徵スルニ至ルヘシト然レトモ其制限ヲ立スルハ終ニ最多少限ノ止マル所ヲ知ルヘカラス今最多限ヲ示スヲ以テノ故ニ必



ス最多限ノ額ヲ徵收スヘシトハ斷言スヘカラサルナリ現ニ某縣ニ  
ハ地方稅ヲ地租八分一ニ下タセシ者アリ此ノ如キ不權衡ナカラシ  
トヲ欲スルニハ寧ロ營業雜種稅ニ制限ヲ立テ、其最多限ヲ示ス可  
ナリ故ニ「及制限」ノ三字ヲ存シテ而シテ地方稅ノ不足ハ營業稅等ニ  
適當ノ増額ヲナシ之ヲ補ハ、可ナラントス但其制限ノ額ニ至リテ  
ハ猶充分ノ討論ヲ竭シ本官モ亦更ニ考究スル所アラシノミ畢竟今  
日ノ景況ヲ以テ察スルニ若シ一度制限ヲ解テ之ヲ地方ニ放任スル  
トキハ再ヒ喚起スヘカラサルヤ必セリ況ヤ明治初年以來施ス所ノ  
政府ノ旨ニ反對スルニ於テラヤ且ヤ思ヒヲ將來ニ及ホスモ若干稅  
ヲ負擔セシメンカ爲ニ法律ヲ區々ナラシムルハ不可ナリトス之ヲ  
要スルニ十三年第四十八號布告ニ率由シ地方稅ノ増額ハ賛成スル

モ其制限ヲ全解スルニ至ツテハ賛成スル能ハス今要急ノ案ニ對シ  
修正ヲ加フルハ肯テ好マサル所ナレモ亦憂心忡々止ム能ハサルナ  
リ

○議長 五番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス即チ本案ニ同意者ハ  
起立スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

俸給



一 警察廳舍

建築修繕費

一 土木費

道路橋梁費

治水堤防費

港灣費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

衛生費

病院費

一 教育費

師範學校中學校費

專門學校費

農(工)學校費

書籍館幼稚園費

一 區町村立學校補助費

一 郡區廳舍建築修繕費

一 郡區役所費

俸給

廳費

一 教育費



一 浦役場及難破船諸費

一 諸達書及揭示諸費

一 勸業費

一 戸長以下給料及戸長職務取扱諸費

一 地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲  
換手數料現金遞送等ノ費用

一 府縣廳舍建築修繕費

一 府縣監獄費

俸給

廳費

在監人諸費

一 府縣監獄建築修繕費

○ 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス若シ已ヲ得サルノ場合ニ

於テハ常置委員ノ決議ヲ經小費目ヲ流用スルコトヲ得

○ 豫備費 豫算外ニ生シタル事件  
ノ費途ニ充ツヘキモノ

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府

知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ之ヲ加

フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○ 議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス



布告案

明治十五年 月 日ヨリ施行

○明治十三年四月第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正削除ス

第一條 營業稅目左ノ如シ

○商業

○工業

雜業 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋備人受宿遊藝師匠遊藝雜人理髮人相撲俳優幫間藝妓捕鳥捕獸漁業

採藥類

但國稅アルモ以テ課稅ヲ限ニアラヌ課會ノ中央編モ課稅

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官

第二條 雜種稅目左ノ如シ

備料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店類

湯屋類

理髮人業類

○四十備人受宿本案論末ニ

遊藝師匠遊藝雜人相撲俳優幫間藝妓ノ類

市場演劇其他興行遊覽所

遊技場 玉突大弓楊弓 射的吹矢ノ類

人寄席

船 船川船及五車 馬車人力車荷積馬車荷積大七 大國稅ノ半 七石未滿海船 八車荷積中小車荷積牛車ノ類







○四字有無如何ヲ問ハ、之アルヲ可トス答ヘンノミ元來營業稅雜種稅中ニハ收大多キ者アレトモ亦僅少ナル者アリ地方ノ實際ニ由テ考フレハ先ツ徵稅シ易キニ着目シテ各種網羅セサルヘカラス而シテ其之ヲ課スルノ法モ亦數等アリテ多キハ十圓少キハ二三錢ニ及フヘシ今捕獸ハ姑ク之ヲ措キ捕鳥ノ如キハ各地共ニ課稅ノ部ニ属セリ夫ノ東京ノ鴨獵網獵ノ如キハ概本身體運動ノ料ニシテ亦遊技ナリ又遊技ニシテ往々其獲ル所ノ鳥魚ヲ公賣スル者アリ此ノ如キハ乃チ課稅スルモ毫モ妨ケヌカマナシ各地方ニハ鴨鵝等ヲ捕ワル者多シ而シテ筑前筑後豐前等ニハ此業ヲ爲ス者三四十人アリテ鴨網ノ如キハ一年ノ收入多キハ三四百圓ニ上リ少キモ亦四五十圓ニ下ラヌ又捕獸ハ多ク銃ヲ以テスル者大レト地方ニ由テハ獸ヲ捕

フルハ山野ノ害ヲ防クノミニアラスシテ生業トスルノ徒之アリ聞ク捕鳥捕獸ハ既ニ特別課稅ヲ許ルスモノ十縣以上ニ及フト然ラハ則之ヲ明文ニ掲ケテ稅ハ網羅シテ遣サ、ルノ目的ヲ達スルヲ可トス故ニ四十番ヲ賛成ス

○議長 四十番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○七番 柴原和 捕鳥捕獸ノ四字ヲ加フルノ精神ハ發議者賛成者共ニ異ナルカ如シト雖モ其議一ナルヲ以テ之ヲ駁撃セサルヘカラス而シテ四十番ハ捕鳥捕獸ノ字ヲ加フルニ由テ更ニ第三條ヲモ併削スルノ豫陳ヲ爲セリ知ラヌヤ漁業採藻ノ慣例ハ重大ナルヨヲ蓋シ捕鴨ノ業ヲ營ム者ハ各地寔ニ多シ然レトモ此捕鴨ノ最上點ヲ以テ山村僻地ニ在ル細民等ノ農業ノミニテハ生計ヲ營ム能ハサルヲ以テ婦



女子ヲシテ雀ヲ羅セシメ妻ニ捕兔ヲ介セシムル如キ者ニ至ルマテ  
 悉ク課税ノ部ニ入ントスルハ豈不可ノ甚タシキモノナラスヤ今特  
 別ニ之カ課税ヲ數縣ニ許ルス者モ畢竟其大ナル者ノミニシテ決シ  
 テ此ノ如キ細小ノ點ニハ達セサルナラン然ルニ一羽ノ雀ヲ捕フル  
 モ税ヲ課シ又適マ一頭ノ猛獸ヲ捕エテ山野ノ害ヲ除クモ却テ課税  
 スト云フハ何ノ意ツヤ本官等捕鳥捕獸ノ字ヲ削リテハ蓋シ之カ爲  
 ○スナリ  
 八番  
 黒田 清綱  
 ○五番 佐野 常民 四十番ノ修正説ハ素ヨリ不可ナシト雖モ本官ハ本家中  
 「國税ノ半額以内」ト云フヲ下付ノ原案ニ復セント欲ス蓋シ地方税ハ  
 國税ノ附加税ナリ國税既ニ制限アリ地方税豈制限ナカルヘケンヤ

若シ夫レ制限ナクンハ國税ニ二三倍シテ地方税ヲ課スルノ恐レア  
 ラン本官ハ制限ヲ置クノ精神尙未タ止マス故ニ第八條ニ至ラハ該  
 末文「報告スヘシ」ヲ「具狀シテ政府ノ裁可ヲ受クヘシ」ト修正セント  
 欲ス該條ニシテ本官所論ノ如クセハ第三條ヲ削ルモ亦可ナリ何ト  
 ナレハ第三條ナキカ爲ニ新税ヲ課スルコアルヲ危懼セハ制限ハ決  
 シテ解クヘカラサレハナリ要スルニ慣例アル者ハ之ヲ課シ慣例ナ  
 キ者ハ課スヘカラスト云フ如クンハ制限ヲ解カハ東京府其他各地  
 方共ニ如何ナル課税ヲナスヲ知ルヘカラス故ニ第三條ハ之ヲ削ル  
 モ不可アルコナシ  
 ○七番 柴原 和 本官ハ本問題ノ成否ニ拘ハラス更ニ別項ヲ修正セント  
 欲ス蓋シ委員會議ノ議決ヲ變スルニハアラス其理由ハ既ニ委員各



位ニ豫陳セシヲ以テナリ

○議長 四十番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ四十番ノ修正説ハ消滅ス

○七番 柴原和

本官ハ委員會議ニ方テ「國稅ノ半額以内」ヲ削除スヘカラ

スト痛論セシモ議終ニ協ハスシテ之ヲ削除スルニ決セリ然レトモ

本官到底之ヲ甘ンセス故ニ前陳ノ如ク今又修正説ヲ提出セント欲

スルナリ蓋シ修正ノ意味ニ至テハ五番ノ説ク所ニ異ルナキモ只行

文ノ同シカラサルノミ惟フニ舟車ハ國稅アル者ナリ而シテ其國稅

ニハ既ニ制限アリ然ラハ則チ地方稅ニ制限ナキハ理ノ當ラサルモ

ノナリ故ニ國稅ノ額ヲ超過スヘカラスト修正セント欲ス若シ然ラ

スシテ之ヲ刪除セハ車ノ國稅ハ一圓ナルニ地方稅ハ二十圓ヲ以テ

スルモ亦如何トモスル能ハサラン其内閣下付ノ原案ニ復スルモ或

ハ不可ナキニ似タレモ車ハ道路ヲ損スルヲ極メテ大ナル者ナレハ

之ヲ國稅ノ半額トナスハ恐ラク過少ナラン然リト雖モ地方稅ハ國

稅ニ比スレハ輕キ者ナルヲ以テ亦制限ヲ解テ輕重ヲ失フヘカラサ

ルナリ即チ第一條「但國稅アル者ハ課稅ノ限ニアラス」トアルモ之カ

爲メナルヘシ

○一番 津田具道 賛成

○議長 七番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 七番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者九人



○議長 多數ナルヲ以テ七番ノ修正ニ決ス

書記官

森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若

シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決

議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受

クヘシ

○四十番

鍋島直彬

本官ハ豫陳セシ如ク本條ヲ削ラント欲ス惟フニ本條

ハ從來慣例ニ依テ課セサル者ニ新稅ヲ課スヘカラスト云フノミナ

ラス其所謂慣例ヲ改正シトハ課稅ノ額ヲ増減スルノ謂ナリ而シテ

之ヲ増減スルニハ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシト

云フハ乃チ微々タル賤業ニ重稅ヲ課セシメサルノ意ナルヘシ既ニ

此ノ如ク地方官及ヒ議會ニ過誤アルヲ顧慮スルハ豈無制限ナル放任主義ニ矛盾スルコトナカラシカ苟モ地方議會ヲ信シ其權限ヲ擴張セント欲スルノ主義ナリトセハ獨リ漁業採藻ノミヲ偏護スルノ理アルコトナシ之ヲ以テ本條ヲ削除スヘシトス

○五番

佐野常民

賛成ス惟フニ本條ハ存スルモ亦害ナキカ如キモ畢竟大

ヲ漏シテ小ヲ執フルニ當リ前後甚タ不權衡ナリトス本條ヲ存スル

ルハ恰モ廣漠タル平原中ニ一小丘ヲ起スカ如キ者ナリ即チ大ナル

課稅ニ制限ナクシテ小ナル課稅ニ制限アルヲ以テナリ苟モ各地方

共ニ慣例ヲ顧ミスシテ唐突ニ新稅ヲ興スコトナキハ知ル所ナリ況

ヤ慣例ヲ云ヘハ漁業採藻ノ類ノミニアラヌシテ他ノ雜種稅モ亦慣

例アルヲヤ本條ヲ削除スルヲ可トス



○議長 四十番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○七番柴原和 圖ラサリキ四十番ノ動議問題トナラントハ抑漁業採藻タル地方ニ於テハ最モ緊要ノ業タリ今若シ本條ヲ削ラハ地方人民ノ害タル實ニ甚タシ故ニ漁業採藻ハ其稅ヲ課セサルモ可ナルカ如キモ只捕鯨等ノ如キ大利益アル者アルヲ以テ此項ヲ加ヘサルヘカラサルナリ而シテ其慣例ニ依リ之ヲ課スヘシト云フハ海岸ニ釣ヲ垂レテ生ヲ營ム等ノ小民アルヲ以テナリ若シ本條ヲ削ラハ是等ノ者ニモ課稅スルニ至ルヘシ且ヤ採藻ハ田野ノ肥料ニ供スルカ爲メニシテ亦欠クヘカラサル者トス而シテ是等ノ業ヲ執ル者ハ多クハ最下等ノ賤民ナリ故ニ漁業採藻ハ課稅スルモ湯屋待合茶屋等ト一般ニ見ルヘカラス彼ノ海岸等ノ漁民ノ爭訟ヲ起スヤ多クハ慣例ニ

依ラスシテ課稅スルニ源由スル者ナリ本條決シテ削ルヘカラス

○二十二番渡邊清 七番ニ同意ス地方ノ實際ニ由レハ下民ノ紛紜ハ大

抵課稅ニ起ルヲ以テ地方官ハ其情ヲ酌量シテ之ヲ免除セントスルモ如何セン法律ニ明文アルキハ已ムヲ得スシテ課稅スルニ至ルヲ若シ本條ヲ削除スルカ如キハ其免稅ヲ欲スルモ法律ノ許ルサ、ル所ナレハ必ス亦課稅セサルヘカラサレハナリ

○五番佐野常民 七番二十二番ハ地方實際ノ景況ヲ知ルノ論者ナリ而シ

テ小漁等ニ課稅スルヲ恐ル、ノ説アリ小漁ニ課稅スルヲ恐ル、トナラハ工業等モ亦然ラサラン看ヨ其日暮シノ工業者ハ却テ小漁等ノ時ニ大漁アリテ數日ノ安キヲ得ルカ如クナラスシテ日々辛苦ノ生計ヲ爲ス者アルヲ今論者ノ本條ヲ削除スルニ苦心スルハ一ヲ知



テ未タ其二ヲ知ラサル者ナリ本官ハ更ニ第八條ニ説アルヲ以テ本條ヲ削ラサルヘカラストス

○二十二番 渡邊清

元來雜種稅等ハ其課法一樣ナリト雖モ漁業ニ至テハ其法種々無量ニシテ或ハ同郡村ニシテ其課法異ナル者アリ彼ノ沿海ノ府縣下ニ大爭訟ヲ起スコアルハ皆此慣例ヲ破ルニ由ル五番ハ本官等ヲ目シテ一ヲ知テ二ヲ知ラスト論スレトモ漁業稅ハ船ニ課スルアリ網ニ課スルアリ梁筭ニ課スルアリテ各種各異ナリ故ニ猥リニ此ノ如キ者ニ新稅ヲ課スヘカラストスルナリ然ラサレハ地方官議會共ニ課稅ニ苦心スルコアルヲ恐ル、ナリ

○十九番 箕作勝祥

反對論者ハ制限ヲ解ク以上ハ本條ヲ削ルヘシト云フト雖モ政府各地ノ慣例ヲ重スルノ美意ハ反對論者モ知ル所ナラン

抑各地ノ慣習タルヤ其効力殆ト法律ニ均シキ者ナリ此法律ニ均シキ慣習ヲ猥ニ動かスハ立法權ヲ冒ス如キ者ナリ今地方稅ノ制限ヲ解シハ畢竟國庫ヨリ出ス所少ナキカ故ニ各地方公益ノ業ヲ興スコ能ハサルヲ以テナリ是自由ニ義務ヲ負荷スル以上ハ自由ニ課稅セシムル者ニシテ前後全ク其旨ヲ異ニセリ豈彼ニ許ルスヲ以テ此モ亦許ルサハルヘカラストスルノ理アルヘケンヤ、因言ニ對言イニ

○五番 佐野常民

慣例ヲ重タルハ本官モ亦之ヲ知ル素ヨリ本條ヲ削リテ地方官ヲシテ慣例ヲ破ラシムルト云フニハアラス彼ノ職工ノ如キモ十一年度ニハ課稅セサルノ慣例ヲ作レリ否特別免稅トナセリ而シテ今日ハ此ニ課稅スルニ至レリ故ニ今本條ヲ存スルトキハ自カ



ヲ他ノ雜種稅ニ毛及ハサル不カラサルヲ以テ之ヲ削除セシト欲ス  
 ルナリ平野ニハ點對ナセシメ、對面モナリ、否辨限取消ナシテ、而  
 紙式官退席ニ對面ニ如クシ、州ニ番ニハ、四條薩謨工ノ成キ  
 ○十九番 興作 麟祥 五番ノ說ハ却テ原案ヲ贊成スル者リ如ク何トナレハ  
 慣例ヲ尊ムハ之ヲ知ル職工ノ如キモ慣例ヲ破リテ之ヲ取ルニ至レ  
 亦ト蓋シ新法ヲ作ルハ慣例ト云フヘカラヌ從來ノ因習ヲ慣例ト云  
 フ即チ漁業ハ慣例ニテアラズ漁人中ニ法律ニ比スハキ慣例ナル者是  
 レナリ此慣例ト未タ課稅セサル所ノ職工ニ課稅スルトハ大ニ其旨  
 異ニスルナリ又本條ハ存スルモ不可ナシト云々如キ輕率タル  
 考按ナリトセハ止ムヲ得サルノ改正ニ止ムルトノ内閣ノ意ニ副ハ  
 可ナラン

○議長 四十番ノ修正說ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ四十番ノ修正ハ消滅ス即チ本案ニ同意者ハ

起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○議長 書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條中(決議ヲ以テ)ノ下(稅額制限内ニ於テ)ノ八字ヲ削ル

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

議長 全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス



○議長書記官森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 削除

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○議長書記官森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第七條 削除

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

○議長 起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○議長書記官森山茂

左ノ案ヲ朗讀ス

第八條

第四條第五條ニ於テ府縣會ノ決議ニ依リ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨ

リ内務大藏兩卿ニ報告スヘシ

○五番佐野常民

本條ヲ修正セント欲ス蓋シ本條ハ課目課額ヲ府知事縣

令ヨリ内務大藏兩卿ニ報告スルニ止ヌタリ一體稅目ニ確然タル制

限アラハ之ヲ報告ニ止メテ可ナルモ今ヤ稅目ハ之ヲ大分シテ擧ツ

ルモ工下云ヒ商ト云フモ其種類千差萬別ナリ殊ニ制限ヲ解ク以上

ハ地方官ト議會トノ意見ニ從ヒ政府ハ毫モ容喙スル所ナシ故ニ地

方ニシテ職工三千五百圓ヲ課スルトスルモ政府ハ此課稅ヲ以テ政

府勸王ノ意ニ戻ルト云テ之ヲ斥スル能ハサルヘシ北米聯邦ノ如キ

分權政治ノ國ハ知ラス本官カ遊歴セシ所ノ歐洲中文明自由ヲ以テ

誇負スル塊伊佛ノ如キ中央集權ノ國ニ在テハ此ノ如ク之ヲ放任ス



ルモノナシ故ニ府縣會ノ決議ニ依リ確定シタル課目課額ハ府知事  
 縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシト修正セシ  
 ト欲ス此ノ如クンハ裁可スルト裁可セサルトハ其權政府ニアリテ  
 其誤謬ナキヲ免レンノミ若シ本案ノ如クンハ誤謬アルモ之ヲ訂正  
 スルコト能ハス其實例ハ既ニ法律定ムル所ノ工稅十五圓ヲ東京府ハ  
 千五百圓ニ上セシヲ以テモ知ルヘキナリ現ニ輸出入平均ヲ得ザル  
 モ勸工ノ法ヲ得サル者其一ニ居ルニアラスヤ惟フニ二百萬圓ノ  
 稅ノ爲メニ文明各國ニ類例ナキ放任ヲナスハ獨逸政府ノ失策ノミ  
 ナラス之ヲナスハ議官タル者ノ精神ニアラスナルナリ今ヤ地方議會  
 ニ委スルニ此ノ如キノ權ヲ以テセハ他日國會起ルノ日ハ如何ナル  
 大權ヲ國會ニ與ヘント欲スルヤ大權ヲ政府ニ歸スルコソ官民ノ利

益ナルヘケレ又裁可ヲ受クヘシトスルモ兩卿勉強事ニ從ハ、具狀  
 裁可不裁可トノ間往復日子ヲ費スシタリ若シ其レ多クノ日子  
 ヲ費ヤス如キニ至テハ素ヨリ誤謬ヲ訂正スヘキ者アルニ由テナリ  
 ○三十番九鬼本官ハ修正委員ノ一人ナリシニ調査ノ際注意此ニ至  
 テサリシ今五番ノ說ヲ聞キ深ク感スル所アルヲ以テ之ヲ贊成ニ向  
 三番カ制限ヲ解クヲ不可トセシ說ニ同意セサリシハ到底最多限  
 ヲ示スモ増稅ヲ恐レヲ防ク能ハサルニ由テナリ看ヨ議員ハ種々ノ  
 性質ヲ以テ組織スル者ナレハ商ニ出ル者ハ商ニ厚ク工ニ出ル者ハ  
 工ニ厚キハ人情免カル、能ハサル者ナリ又第三條ノ削除說ニ同意  
 セサリシモ第八條ノ行藏未定マラサリシヲ以テナリ然レトモ本  
 條ニ至テハ贊成セサル能ハス何トナレハ各地各異ノ課目課額アル



ハ國家ノ大經濟ニアラサルヲ以テナリハ各該各員ノ職務ニ

○議長 五番ノ修正説ハ賛成者アルヲ以テ問題トナスルニ本

○十番 津田眞道 賛成ス其主旨ハ五番ノ陳述セシ如ク輸出入平均ヲ失ハ

シメサル爲ニ裁可ノ權ヲ政府ニ歸スルハ至當ナレハナリ出ル

○七番 柴原和 本官ハ修正委員ノ一人ナリ今五番ノ陳述ニ不明了ノ點

アリ先ツ質疑シテ後去就ヲ決セントス五番ハ課目課額ト云ヒシカ

如シ課額ハ或ハ然ルモ課目ハ確定シテ動スヘカラサル者ナリ如何

○五番 佐野常氏 課目課額ノ種類制限ニ當ル者ナリ然レトモ若シ疑點ア

ル如クンハ案ヲ供ヘテ議長ノ机下ニ呈セント欲ス茲ニ特別建議ス

時既ニ晩飯ニ際スルヲ以テ一時散會シ飯後更ニ開議シ縦ヒ徹夜ス

ルモ議了シテ政府要急ノ意ニ副ハンヨヲ望ム

○議長 暫時散會スヘシ

○十九番 箕作麟祥 五番ノ注意ヲ乞フ爲ニ一言セン五番ハ冒頭ヲ府縣會

ノ決議ニ依リ確定云ヤト云ヒシカ如シ本官等報告セシ案ハ第四條

第五條ニ於テ確定シタル云ヤトアリ其之ヲ此ノ如クナセシハ敢テ

○偶然ニハアラサルナリ

○外一 安場保和 五番ノ建議ヲ採用シテ既ニ散會ヲ宣告サレタレトモ

最早末條ニ至リタルコナレハ内閣要急ノ意ニ副ヒ直ニ議了セラレ

シコヲ望ム然ラスンハ或ハ恐ル一時散會ノ爲ニ欠席議員等アルア

リテ成數ニ充タスシテ開議ヲ爲ス能ハサルニ至ルアラシコヲ本官

○五番 佐野常民 内閣委員ハ何ノ理由アリテ議長ノ宣告ニ從ハスシテ一

時散會セハ欠席議員アルヘシ等ノ不敬ノ言ヲ發スルヤ議員タル本



官輩ハ天皇陛下ノ勅ヲ奉シテ議案ヲ議スル者ナリ我同僚中豈夜陰  
 ○ヲ厭フテ欠席スルカ如キ不勤ノ徒アラシヤ且ヤ食時ニ方テモ猶食  
 セスシテ開議スルハ歐米各國ニモ未タ其例アルヲ聞カス是レ本官  
 カ吃飯ノ爲ニ暫時ノ散會ヲ建議セシ所以ナリ今ヤ本案既ニ末條ニ  
 至ルト雖モ兩論對峙シテ雌雄未タ判セサルノ時ナリ然ルヲ徒ニ急  
 ○ヲ要スト云フテ議長ノ宣告ニ從ハサルハ何事ソヤ  
 ○議長 先刻ノ宣告或ハ未タ諸官ノ耳ニ達セサリシカ如キニヨリ更  
 ニ五番ノ建議ト内閣委員ノ請求トノ決ヲ取シ五番ノ建議ニ同意者  
 ハ起立スヘシ  
 ○十一 全員起立  
 ○議長 全會一致ナルヲ以テ五番ノ建議ニ決シ暫時散會スヘシ

午後第六時閉場

午後第六時四十五分開場

○議長 休會前ノ續會ヲ開ク

○五番 佐野 常民 前陳ノ修正說ハ議長ノ机下ニ呈供セリ書記官ヲシテ朗

讀セシメシコトヲ乞フ

○書記官 森山 茂 左ノ修正案ヲ朗讀ス

第八條 本府縣會ニ於テ議決シタル種類制限ハ府知事縣令ヨリ内務

大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○十九番 箕作 麟祥 本官向ニ發議者ニ對シテ注意ヲ加ハシ今明了ナル

修正說ヲ聞クヲ得タリ熟考スルニ制限ヲ解ク以上ハ亦全ク地方ニ



放任スル能ハサルヘキヲ以テ改メテ五番ヲ賛成ス五番ノ修正ヲシ

○テ行ハレシメハ現行法第四條ヲ削ラサルヘカラス但他ハ下付案中

ノ者ニアラサルヲ以テ意見書ヲ出スモ可ナラン此事問題外ト雖モ

自カラ本條ニ牽連スル所アルヲ以テ一言ヲ添フルノ事

○議長 五番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十三人

○議長 多數ナルヲ以テ五番ノ修正説ニ決ス

○書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第九條中(第一條)ノ下(第二條)ノ三字ヲ削ル

右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ茲ニ第二讀會ヲ了ル

○外 一番 安場保和 既ニ第二讀會ヲ了リシ以上ハ直ニ第三讀會ヲ開カレ

ンコヲ請求ス

○五番 佐野常民 内閣委員ノ請求ハ已ムヲ得サルノ請求ナリト雖モ本案

ノ修正ハ數條ニ亘リ殊ニ第八條ノ如キハ十九番陳述ノ如キ牽連ノ

○點モアルノミナラス一項ヲ見ルト全案ヲ通觀スルトハ自カラ其旨

ヲ異ニスル者アリテ萬一遺漏アルヲ恐ル故ニ確定決議ヲ明朝ニ延

ハシヨヲ建議ス

○七番 柴原和 本官モ五番ト同感ナリ本官ハ第一條ニモ異論アリ蓋シ

第一條ハ第二讀會ニハ削除ニ決シタレトモ今ヤ削除論者中既ニ五



名ノ欠席アリ今ニシテ復舊ヲ謀ラハ勝ヲ制スルハ既ニ判然タリ又  
 第八條モ種類制限等ノ字面穩カナラサルヲ覺フ況ヤ十九番ヨリ第  
 四條牽連ノ説アルヲヤ是本官等ハ敢テ夜陰ヲ避ケサル所ナレトモ  
 萬一粗漏アラントヲ恐レテナリ  
 ○議長 内閣委員ノ請求ヲ許容スヘシト思考スル者ハ起立スヘシ  
 起立者二人  
 ○議長 少數ナルヲ以テ内閣委員ノ請求ハ消滅ス即チ第三讀會ハ明  
 日例刻ヨリ之ヲ開カン散會スヘシ  
 ○午後第七時閉場

元老院會議筆記明治十五年一月十四日

○第二百八十五號議案 地方稅規則營業稅雜種稅規則修正之儀 第三讀會

議長 寺島宗則

出席議員

- 一番 津田 眞道
- 三番 本田 親雄
- 四番 野村 素介
- 五番 佐野 常民
- 七番 柴原 和
- 八番 黒田 清綱
- 十番 河田 景與



十二番 東久世通禧  
 十五番 大給 恒  
 十八番 津田 出  
 十九番 箕作 麟祥  
 二十番 九鬼 隆一  
 廿二番 渡邊 清  
 廿四番 林 友幸  
 廿五番 大久保一翁  
 廿九番 楠本 正隆  
 三十番 岩下 方平  
 卅四番 榎村 正直

卅五番 淺野 長勳

卅六番 細川潤次郎

四十番 鍋島 直彬

内閣委員 番外 参事院議員 安場 保和

同 番外 参事院員 外議官 補白根 專一

午前第十時三十分開場

○議長 本日ハ第二百八十五號議案中地方税規則營業稅雜種稅規則

修正布告案ノ第三讀會ヲ開ク各位例ニ遵ヒ發議スヘシ

○十二番 東久世 通禧 開議ニ先ダテ特別ノ建議ヲ爲ス蓋シ本案ハ順序ニ

由レハ先ツ地方税規則ヲ議了シテ而シテ後營業稅雜種稅規則ニ及

ハサルヘカラサルモノナレトモ惟フニ地方税規則ニ付テハ議論必ス



多カラン故ニ議事進捗ノ爲メ先ツ營業稅雜種稅規則ヲ議了シテ後  
地方稅規則ニ及ハンコヲ望ム

○七番柴原和本官ハ前後順序ヲ變換セスシテ議了センコヲ望ム蓋シ

地方稅規則中第一條ハ前會ニ於テ卅六番ノ動議ニ因テ既ニ削除セ

○シト雖モ本官ハ本會ニ於テ之カ復舊ヲ謀ラント欲ス且五番モ亦前

會ト同ク制限ヲ解クコニ付テ議論アルヘシ旁以テ順序ヲ變換セサ

ランコヲ望ム

○議長 十二番ノ建議ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者五人

○議長 少數ナルヲ以テ十二番ノ建議ハ消滅ス

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

○廿五布告案

○明治十三年四月第十六號布告地方稅規則中左ノ通改正明治十五年

○月五日ヨリ施行ス

第一條 削除

○七番柴原和本官ハ附托修正委員ノ一人ニシテ委員會ニ方テモ第一

條ニ若クハ家屋稅ノ六字ヲ加フルコハ原案ノ如クナランコヲ要シ

之ニ從ヒ其理由ヲ詳述セシニ卅六番ヨリ第二讀會ニ於テ家屋稅ヲ

興スハ新稅ナリ家屋稅ハ地方稅ノ性質アル者ニアラス國稅トナス

ヘキ者ナリ而シテ土木費中ノ國道大河ノ如キモ國庫ヨリ支辨スヘ

キ者ナリトノ動議起リテ遂ニ第一條削除ニ決セリ本官以爲ラク卅

六番ノ說理ハ間然スルコナキモ目下ノ用ニ適セスト其故如何トナ



レハ州六番ハ日ク一度地方税トシテ徴收スルキハ後日國税ニ變ス  
 ルト難シト本官ノ意ハ之ニ異ナリ夫ノ營業税等ノ如キモ遂ニ國税  
 トナスヲ得ヘキモノナリ今地方税ヲ賦課スルト云フモ後之ニ國税  
 ヲ課スル何ノ困難カ之アラン若シ然ラサレハ國會議員ノ權利ニ不  
 權衡アルヘキナリ又家屋税ヲ以テ新法ノ如ク論スレモ決シテ然ラ  
 ス看ヨ其性質ハ稍異ナルモ猶是戸數割ナリ舊政府ノ小間割モ亦然  
 ○リ豈家屋税ヲ目シテ夫ノ王安石ノ青苗法ト同視スヘケンヤ本官ハ  
 必ス原案ニ復センコトヲ望ム

○十五番 大給 恒 賛成

○十番 河田 景典 賛成

○廿九番 楠本 正隆 賛成

○廿二番 渡邊 清 自賛成

○十九番 笑作 麟祥 賛成

○二十番 九鬼 隆一 賛成

○議長 七番ノ動議ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○廿九番 楠本 正隆 本官ハ不幸ニシテ昨日缺席シタルヲ以テ本條削除論

ヲ聞クヲ得サリシ然リト雖モ本官モ本案付托修正委員ノ末ニ班シ  
 内閣下付原案ニ從ヒシハ抑故ナキニ非ス惟フニ戸數割ハ都鄙自カ  
 ラ便不便アリテ勢ヒ其課法ヲ異ニセサルヲ得ス蓋シ地方ノ費目ハ  
 之ヲ明了ニセサルヘカラスト雖モ課目ニ至テハ必シモ法律ニ明掲  
 セスシテ地方ニ委任スルヲ可トス地方若シ課スヘカヲサルニ課セ  
 ハ之ヲ禁止スヘシ何トナレハ課目ヲ掲ケテ全國一様ナラシメント



欲スレハ都鄙東西大ニ其狀勢ヲ異ニスル者アルヲ以テ其不便謂フ  
 へカラサレハナリ故ニ本官ハ費目ハ之ヲ掲クルモ課目ハ之ヲ地方  
 ニ委任スルヲ以テ持論トセリ然リト雖モ暫ク課目ヲ掲クルニ左袒  
 セシハ我邦議會開設以來日尙淺キヲ以テ或ハ誤謬失策アラシトヲ  
 恐レテナリ既ニ之レアラシト恐ル故ニ止ムヲ得スシテ課目ヲ掲ク  
 ル者ナレハ其課目ヲ寬廣ニセサレハ地方必ス困難ヲ極メン近來政  
 府財政困難ヨリシテ地方税ノ負擔ヲ加重シテ其補助ヲ止メタルヲ  
 以テ地方ハ止ムヲ得ス今日其缺ヲ補ハサルへカラサルナリ豈課目  
 ヲ減縮シ地方經濟ニ餘地ヲ與ヘスシテ可ナランヤ又課目ヲ掲クル  
 中ハ必ス徵收セサルへカラサルノ理ナキナリ故ニ家屋税ト雖モ其  
 徵收方法ハ自カラ各地ノ風土人情ニ由テ之ヲ定ムヘキナリ戸數割

ト雖モ亦然リ要スルニ政府其綱ヲ舉ケ其目ヲ示サスシテ可ナリ願  
 クハ下付原案ニ復センコトヲ祈ル

○二十二番 渡邊清

本官ハ第二讀會ニ於テモ家屋税ノ字ヲ削ルへカラ

スト主張セリ若シ家屋税ヲ不穩當ナリト云ハハ戸數割モ亦不穩當  
 ナリ其レ然リ然レモ之ヲ課スルハ止ムヲ得サル道理ノ存スルアル  
 ニ由ルナリ何トナレハ税則未タ改良セサレハナリ抑税則ハ經國ノ  
 大本ニシテ一朝一夕ニ遂成スヘキ業ニアラス故ニ不穩當ナカラモ  
 今日人民ノ進度ニ照ラシテ原案ノ如クセサルへカラス東京府會等  
 ニテハ現ニ法律ニ示サル所ノ家屋税同様ノ課法ヲ以テ戸數割ヲ  
 徵收セリ若シ人民起テ府會ハ法律ニ背ケリトシ之カ公判ヲ仰クニ  
 至ラハ府會ハ何ノ辭カ以テ之カ答辨ヲ爲スヘキヤ然ルニ人民ノ府



會ヲ責ムルニ違法ヲ以テセサル者ハ亦止ムヲ得サルノ情實アルヲ知レハナリ今家屋稅ヲ目スルニ新稅ヲ以テスルノ論者アレモ東京府等ニ於テ既ニ其實跡アリ然ハ則チ其名ノ新ナルヲ以テ之ヲ新稅ト云フハ豈誣ルニアラスヤ但家屋稅トナセハ其賦課方法ヲ示スヲ可トスト雖モ若シ之ヲ示サントセハ繁密云フヘカラス寧ロ漠然坪割等ニ任シテ可ナランノミ

○五番佐野 常民 動議者及ヒ贊成者ハ實ニ可驚ノ論ヲ發スルモノナラスヤ其論旨ヲ摘メハ稅ハ何ノ趣旨ニ由テ之ヲ徵スルヤ政府ハ顧ミサルモ可ナリト云フカ如シ若シ地方稅ハ課目ヲ掲ケス地方ニ放任スルヲ可トストセハ政府ハ地方ニ令ヲ下シ幾百萬圓ヲ要スルモ隨意ニ之ヲ徵收スヘシト云ハ、地方長官ハ唯命之レ從フヘシ政府ニシ

テ此ノ如クシハ人民タル者果シテ政府保護ノ下ニ在リト謂フヲ得ヘキヤ文明ヲ以テ鳴ル所ノ泰西各國ニ於テモ未タ此ノ如キ放任主義ハアラザルナリ又我邦ノ進度未タ此ニ到ラサルヲ以テ此ノ如クスヘシト云フモノアリ其所謂進度トハ如何ナル者ヲ謂フ乎本官ハ稅法ヲ議スルニ放任主義ノ一ニ此ニ至ルノ急進ナルニ驚カサルヘカラス本官等熱心執ル所ノ說ハ稅ハ止ムヲ得スシテ徵セサルヲ得サレハ之ヲ徵スルモ其之ヲ徵セハ人民困苦ストノ主義ニ外ナラス蓋シ人民ニシテ稅ヲ納メサルヘカヲサルハ自他ヲ保護シ國權ヲ伸張スルノ經費ニ供スルモノナリ今我國權ノ伸張スル能ハサルハ主トシテ租稅ノ少額ナルニ由ル看ヨ我一年間ノ歲入ハ佛國一年間歲出ノ剩餘ニモ及ハス米利堅合衆國ノ輸出入ヲ一見シテモ彼國租稅



ノ多額ヲ知ルヘシ顧テ我人口ヲ算スレハ敢テ佛國ニ讓ルニアラス  
 而シテ歳入ニ此ノ如キノ不平均アルハ何ノ故ソヤ是レ租税ノ額ヲ  
 加ヘサルヘカラサル所以ナリ蓋シ税ヲ徵セサレハ人民ヲ保護スル  
 能ハス亦勸誘スル能ハス故ニ徵スルヲ得ヘキハ勉メテ之ヲ徵セサ  
 ルヘカラス之ヲ徵スレハ人民或ハ困苦スト雖モ其困苦ヲ厭フテ之  
 ヲ徵セサレハ國家ヲ富域ニ傾向セシムル能ハサルナリ然ルニ今國  
 税ハ平等ニ之ヲ課シ而シテ地方税ハ各地隨意ニ取捨セシムルト云  
 フ果シテ然ラハ地租三分ノ一ヲ増減スルモ亦隨意ナリト云フヲ得  
 ヘキカ是レ理ノ解スヘカラサルモノナリ又戸數割ハ不穩當ナリト  
 論スル者アレモ若シ家屋税ハ正クシテ戸數割ハ不正ナリトセハ何  
 ソ十一年以來之ヲ實行セシヤ本官ハ昨日モ論セシ如ク戸數割ハ舊

慣タル竈錢小間割等ニ依準シテ之ヲ課シ苟モ一戸ヲ構フル以上ハ  
 義務トシテ之ヲ徵收スルモノトス但之ヲ徵スルニ貧富平均ヲ以テ  
 スルニハアラス其課額モ亦地方官及議會ニ任ス故ニ戸數割トアル  
 ヲ以テ必ス之ヲ人頭税トスルニハアラス或ハ二階屋平屋等ノ差等  
 ヲ立ル乎若クハ竈ニ課スル乎ノ差アルノミナリ各地現ニ實行スル  
 者皆然ラサルハナシ何ヲ以テカ戸數割ヲ不可ト云フ抑納税ハ人民  
 三大義務ノ一ナリ道理上ヨリ之ヲ推セハ其人ノ如何ヲ問ハス每人  
 必ス之ヲ納メシメサルヘカラサル者ナリ米國ニハ人頭税アリ我國  
 モ古昔ハ戸口税アリシ苟モ一戸ヲ構ヘテ若干ノ家族ヲ養フモノハ  
 政府ノ保護ヲ受ケサル者アラス既ニ其保護ヲ受ク乃チ之ニ課税ス  
 ルハ之ヲシテ義務ヲ知ラシムルモノナリ本案戸數割ヲ變シテ家屋



税トナサントスルハ東京府知事ノ建議ニ由レリ然リ而シテ家屋所  
 有主ニ賦課セサル所ハ脱税多キニ苦ム等ノ僅々タル理由ニヨリ忽  
 チ此精神ノ違フモノヲ以テ彼舊慣ヲ改メントス豈可ナリト云ヘケ  
 シヤ我邦維新以來政府特ニ愛民ノ主義ヲ以テ各藩各異ノ税法ヲ改  
 定シテ今日ニ至レリ然ルヲ地方ノ景況如何ニ泥ミ其賦課法ヲ異ニ  
 シ事々物々放任セントスルハ本官等ノ解スル能ハサル所ナリ政府  
 タル者豈此ノ如キ者ナランヤ本官斷シテ言ヲク例ヘ家屋税ヲ廢ス  
 ルモ獨リ東京府ノ十五年度ニ方リ多額ノ家屋税ヲ徵收セント欲ス  
 ルノ結構ヲ阻止スルノミ豈他ニ不都合アラランヤ今ヤ戸數割ノ徵收  
 方法ニ困ムノ一點ヨリ國税ニ加フヘキ家屋税ヲ以テ舉テ地方ニ放  
 任スルノ理ハ萬アルコトナシ若シ政府ニ於テ全國一般ニ負擔セシ

ムヘキ義務トシ戸數割ヲ改メテ家屋税トナスヘントノ主義確定セ  
 ハ精細其方法ヲ講究シテ後此ヲ廢シ彼ヲ設クルハ可ナリ或ハ戸數  
 割家屋税兩ナカラ取ラサルヘカラストセハ兩方ヲ取モ或ハ可ナラ  
 シ然レトモ是等ハ皆是レ輕事ニアラス篤ク廟議ヲ盡シ院議ヲ竭ク  
 スヘキモノニシテ固ヨリ勿率ニ議決スヘキニアラス故ニ此一問題  
 ヲ議了スルニハ今年中審議シ來年ニ至リ實施スルノ順序ヲ立ルモ  
 未タ遲シトセス到底本官ハ此利害ヲ講究スルニアラサレハ忽諸ニ  
 付スヘカラストナスナリ

○二十番九鬼

陸一

五番ハ原案主持者ニ向テ可驚ノ論ナリト云ヘリ本官

ハ反テ五番ノ説ニ驚クナリ請フ其故ヲ説シ前會ニ於テ卅六番ハ人  
 民納税ノ多キニ堪ヘサル今日ニ方テ家屋税ヲ興スハ不可ナリト云



七本官ハ議會ハ常ニ減稅ヲ好シテ增稅ヲ欲セスト說ケリ而シテ卅六番ハ又反駁シテ云ク今日ノ勢ハ官府ハ增ヲ欲シ議會ハ減ヲ欲スルヨリシテ此傾向アリト雖モ若シ官府減ヲ示サハ議會ハ必ス增ニ向フノ反對ニ出ツヘシト五番モ亦此主義ヲ以テ卅六番ヲ贊成セシモツナリ然ルニ今五番ノ說ヲ聞ケハ增稅ハ憂フルニ足ラスト云何ソ昨日ノ今日ト相撞着スル此ノ如キヤ本官ハ特ニ國稅ヲ増スヘシトノ持論ナルモ現ニ地方稅ニ加ヘテ要用ノ目アラハ亦地方稅ニ課スルハ不可トセサルナリ論者云ク先ツ方法ヲ制シテ後家屋稅ヲ課セシムヘシ然ラサレハ放任ニ失スト假令方法ヲ制セサルモ決テ放任トハ云フヘカラス夫ノ戶數割ノ如キヲ看ヨ素ヨリ其賦課方法ヲ示ス者ニアラス是レ各地各異ノ課法ヲ以テ便宜ト爲ス所以ニシテ

既ニ五番ノ熟知スル所ニアラスヤ今ヤ家屋稅ヲ以テ戶數割ニ換フルモ唯其名ヲ正シテ其課法ヲ密ニスルニ止マルノミ若シ夫レ家屋稅ヲ課スルニハ先ツ方法ヲ定メサルヘカラスト云ハ、戶數割モ亦然ラサルヲ得サルノ理ナリ抑各位モ知ル如ク府下道路ノ惡キハ其原ト課稅ノ不足ニ由ル蓋シ數年前ニ在テモ府下道路修繕費ハ六萬圓ニシテ今日モ猶是レ六萬圓ナリ物價日騰ノ時ニ方リ豈能ク支フル所ナラシヤ是レ必ス稅ヲ増サ、ルヘカラサル所以ナリ然リト雖モ我邦ノ議會ハ未タ幼稚ニシテ能ク事物ノ理ヲ知ラサルヲ以テ慢ニ減額スルノミヲ以テ道理ノ如ク又ハ議會ノ精神ノ如クニ見做セリ本官去年各地ヲ巡回シテ地方議員等ニ面晤セシニ某地ノ議長議員等謂テ云ク管廳下付スル所ノ議案ハ必ス虛聲ノ巨額ヲ示シ而シ



テ議會ハ努メテ之ヲ減スル時ハ乃チ議會ノ面目ニシテ人民ノ信用ヲ得ル多カラント本官此語ヲ聞キ直ニ面折セリ地方ノ景況實ニ此ノ如キ者ナリ現ニ昨年ノ東京府會ニ於テモ九十八萬圓ヨリ十萬圓ヲ減セリ其之ヲ減セシハ決シテ道理ノ存スル有テ然ルニアラス故ニ世人ハ之ヲ評シテ一個ノ私黨論ト云ヘリ五番ノ論ハ或ハ昨日ニ反對スルニハアラサラン乎本官ハ之ヲ取ラサルナリ

○州六番 細川潤次郎

昨日本官陳述セシ所ノ論ハ各位ノ耳底ニ存スルヲ知ル蓋シ此第一條ヲ削除スルニ付テハ論緒寔ニ多シ本官モ熱心シテ論シタレト此事タル決シテ難題ニアラス一言ニ蔽ヘハ云ク現ニ戶數割ヲ以テ徵收スル以上ハ豈故ヲニ之ヲ變更シテ家屋稅トナスヲ須ロシヤト是レノミ内閣委員ハ成ヘク舊慣ニ由ルト云ヘリ寔ニ

至當ノ言ナリ而シテ其戶數割ヲ課スルニ苦ムト云フノ經驗アルカトニ更ニ家屋稅ナル新法ヲ興スハ實ニ止ムヲ得サルニアラスシテ是レ已ムヲ得テ已マサル者ナリ蓋シ經國ノ費用年々増加スルハ本官モ知ル所ナレハ到底家屋稅モ之ヲ徵セサルヲ得サルノ機アルヘシ故ニ其ノ機到ヲハ堂々家屋稅ノ徵收方法ヲ制定シテ之ヲ下付シ國稅若クハ地方稅トナスヲ可トス然ルニ舊慣ニ依準スル戶數割ノ賦課法モ猶明解セサルノ今日ニシテ一層困難ナル家屋稅ヲ徵セントスルハ何ノ意ソヤ畢竟此ノ如キ漠然タルヲナスハ議會ニ人民ニ困難ヲ與フル者ト云テ可ナラン必ス知ル戶數割スラ弊害アルノ今日ナレハ之ヲ家屋稅ニ改ムレハ果シテ大弊害ヲ醸スコトヲ一體稅法ハ繁密ヲ以テスルモ尙不正アルヲ恐ル、者ナリ收稅員相因緣シ



テ姦ヲナシ人民ヲ苦ムルノ例ハ古來跡ヲ絶タサルナリ惟フニ税ノ  
 名タルヤ善美ナリ人民ノ之ヲ納ムルモ亦善美ナリ然レ由之ヲ極論  
 スルハ人ノ懷ヲ探テ其所持ノ金ヲ拐奪スル盜ト何ソ擇ハンヤ何  
 トナレハ人ノ勞力ヲ以テ得タル利金ノ部分ヲ出セヨト云フテ之ヲ  
 取ルヲ以テナリ其レ然リ然レ由之ヲ納ムルハ三大義務ア  
 ルニ由テナリ今漠然家屋税ヲ徵スヘシトスルハ如何ノ方法ヲ以テ  
 之ヲ徵スヘキヤ人民ヨリ之ヲ云ヘハ寧ロ納税セハ法律ニ由ラシ  
 ヲ欲スヘシ蓋シ盜ニ奪ハル、ト政府ニ納ムルトハ所謂盜ハ約束ナ  
 ク制限ナク之ヲ奪ヒ政府ハ約束アリテ之ヲ徵スルノ差別  
 アルノミナリ若シ政府ニシテ約束ナク制限ナクシテ之ヲ徵收スル  
 由ハ人民ハ政府ヲ指シテ惡虐ト云フヲ得ルナリ苟モ漠然區域ヲ定

メサルノ徵税ヲナス如クシハ人民ハ安心ノ地ナカルヘシ彼ノ封建  
 時代ニ御用金ノ爲ニ家産ヲ傾ケシカ如キニ至ルモ知ルヘカラサル  
 ナリ

○十九番 箕作 麟祥

本官ハ原案ヲ維持ス削除論者ハ外國ノ例ヲ引テ縷々  
 陳辨スト雖モ元來佛米等ノ國ニ於テ國道修繕費等ヲ地方税ニテ支  
 辨セシムルヲナシ我邦十三年第四十八號布告ヲ以テ國道修繕費等  
 ヲ國庫ヨリ出サスシテ地方税ニテ支辨セシメシハ財政困難ニ由テ  
 起ル所ノ政府ノ失策ナリ蓋シ事ヤ物ヤ歐米ニ模擬セシ急進ヨリ終  
 ニ此財政困難ニ陥リシナラン既ニ此困難ヲ救ハンカ爲メニ種々ノ  
 課税ヲ爲スニ至レリ曾テ酒税増加ノ議案ニ付テ内閣委員ノ說ニ由  
 ルモ財政ノ急ヲ救フニ大補アリト云ヘリ當時本官等モ果シテ然ル



ヘシト信用セシニ今聞ク所ニ由レハ其目的ハ中ラサリシト夫レ財  
 政困難ナルコ此ノ如キノ景況ナレハ財源ヲ地方ニ與ヘサレハ何ヲ  
 以テカ道路修繕等ヲ爲スヲ得ヘケンヤ去年地方長官ヲ召集シテ諮  
 問シ尋テ參事院ノ議決ヲ經テ本案ノ如ク追加セシハ實ニ故アルナ  
 リ何トナレハ借家人ニ課スルヨリハ其家屋所有者ニ課スルヲ便ト  
 スレハナリ勿論戸數割ハ年來施行セシ者ニシテ可ナラサルニアラ  
 スト雖モ既ニ郡區經濟ヲ異ニセシ以上ハ其稅法モ亦之ヲ異ニシテ  
 不可アルコナシ故ニ若クハ「字アルナリ又聞ク家屋稅ヲ課スルハ  
 困難ナリト其然ラン營業稅モ亦然リ上リ高幾分一ト云フト雖モ之  
 ヲ調査スルハ實ニ困難ナリ此ニ由テ之ヲ觀レハ課稅ノ困難ヲ云ハ  
 、何ソ獨リ家屋稅ノミナランヤ若シ又家屋稅ニテハ課法ニ困ムト

云ハ、其徵收方法ヲ定メテ可ナリ今日民權說囂々タルノ時ニ方テ  
 ハ大ニ止ムヲ得サル事情ヲ明示シテ國稅ヲ課セザレハ決シテ行フ  
 コ能ハサルナリ故ニ容易ニ國稅ヲ課セサルヲ得策トス今是等ノ事  
 ヲ舉テ地方ニ放任スルハ却テ政略ノ得タルモノナリ若シ夫レ大體  
 ヲ云ハ、警察費監獄費等ハ國庫ヨリ支給スヘキ者ナリ然ルニ地方  
 稅ニ負擔セシムルハ本官等ノ喜ハサル所ニシテ只已ムヲ得サルニ  
 依ルノミ

○七番柴原和三十三番ハ納稅ハ盜ニ奪ハル、モ官ニ納ムルモ其理一  
 ナリ唯其異ナル所ハ盜ノ之ヲ奪フハ制限ナク政府ノ之ヲ徵スルハ  
 制限アルノミナリト其然リ本案ハ即チ法律トナルナリ此法律ナク  
 シテ家屋稅ヲ徵セハ人民政府ヲ目シテ盜ト云フヘキモ已ニ之アル



以上ハ豈之ヲ呼テ盜トナスヲ得ヘケンヤ又前ニ豹變セシ三十四番  
 ハ地方事務ニ老練ノ人ナリ然ルニ家屋稅トセハ其徵收方法ヲ示サ  
 ルヘカラスト云フ府縣會規則第一條ニ「府縣會ハ地方稅ヲ以テ支  
 辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ストアルニアラスヤ蓋  
 シ三十四番ハ多智多才ニ失シテ之ヲ誤解セシ乎又五番ハ家屋稅ノ  
 字ヲ加フルハ東京府ノミノ建議ニ由ルカ如クニ論去スレモ大坂ノ  
 如キモ現ニ家屋稅ノ性質ヲ以テ戶數割ヲ徵收セリト家屋稅ノ法律  
 ナキニ此ノ如キノ課稅ヲ爲スハ人民ヨリ之ヲ云ヘハ即チ盜ニ奪ハ  
 ルト一般ナリ故ニ政府ヨリ某府縣ハ家屋稅トシ某府縣ハ戶數割  
 トシテ之ヲ徵收スヘシト命令スルハ束縛ニ陷ルヲ以テ地方議會ヲ  
 信任シテ之ニ決行セシムルナリ豈之ヲ不可ナリト云ンヤ

○卅四番 棋村正直

本官ハ昨會三十六番ノ說ニ同意セリ然ルニ無智若ク  
 ハ多智多才等ノ語ヲ以テ本官ヲ駁シ甚ダシキハ本官ヲ目シテ豹變  
 家トスルノ論者アルニ至レリ此ノ如キハ駁論ト云フヲ得ヘキ乎本  
 官ハ評スル所ヲ知ラス蓋シ議場ニ於テ發スヘカヲサルノ言語ニ似  
 タレハ此事ハ議長必ス處分スル所アルヘシト信ス畢竟本官ハ官民  
 ノ便不便ヲ顧慮シテ議場ニ發論スル者ナリ今戶數割ヲ課スルニ苦  
 ムハ各地皆然リト云ハ、乃チ家屋稅ヲ課スルニ苦ムハ言ハスシテ  
 知ルヘキナリ殊ニ家屋稅ト戶數割ナル異性質ノ者ヲ以テ一緒ニ揭  
 出スルハ到底爲スヲ得ヘカヲサルナリ現ニ竈錢若クハ小間割等  
 ノ慣例ニ由テ課スル所ノ戶數割ヌヲ猶ホ其徵收方法ニ苦ムトセハ  
 家屋稅ヲ課セシムルニハ大ニ其徵收方法ヲ示サレハ困難ニ困難



ヲ重ヌヘキナリ之ヲ以テ本官ハ家屋税ヲ興スヲ不可トス

○議長 七番ノ動議ニ同意者ハ起立スヘシ其動議ハ...

○議長 少數ナルヲ以テ七番ノ動議ハ消滅ス...

書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス...

第二條 (種類)ノ下(及制限)ノ三字ヲ削ル...

○十九番 時既ニ午ヲ過クルノミナラス本條ニハ各官共ニ修正...

○議長 十九番ノ建議ニ由リ暫時散會スヘシ...

午後零時十分閉場

退席 廿二番 渡邊 清

○議長 午前ノ續會ヲ開ク廿二番議官ハ所勞ニ依リ退席セリ

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十九人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

一 警察廳舎建築修繕費

一 土木費



- 一 區町村土木補助費
- 一 府縣會議諸費
- 一 衛生及病院費
- 一 教育費
- 一 區町村教育補助費
- 一 郡區廳舍建築修繕費
- 一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 一 救育費
- 一 浦役場及難破船諸費
- 一 諸達書及揭示諸費
- 一 勸業費

一 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費

○ 地方稅取扱費

府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲  
換手數料現金遞送等ノ費用

○ 府縣廳舍建築修繕費

○ 府縣監獄費

○ 府縣監獄建築修繕費

○ 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル事件  
ノ費途ニ充ツヘキモノ

○ 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知  
事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ之ヲ加フル

○ 右奉 救旨布告候事



○十二番東久世通禧 木官ハ末文ニ字句ノ修正アリ即チ「云々裁可ヲ得テ

之ヲ加フルコトヲ得」ヲ裁可ヲ受クヘシト修正シ以テ後案第八條ト其

文例ヲ一ニセントス

○七番柴原和 十二番ノ修正ハ意味ニ害ナキノミナラス文意共ニ明了

ナルヲ以テ之ヲ賛成ス

○四番野村素介 賛成

○四十番鍋島直彬 賛成

○十九番箕作麟祥 賛成

○五番佐野常民 賛成

○議長 十二番ノ修正ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題トナシ直ニ決  
ヲ取ラン十二番ノ修正ニ同意者ハ起立スヘシ

全員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十二番ノ修正ニ決ス

書記官森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

布告案

明治十三年四月第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正明治十  
五年三月日ヨリ施行ス

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

商業

工業

○但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ



○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋

理髮人

備人受宿

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優幫間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

○遊技場 玉突大弓揚弓 射的吹矢ノ類

人寄席 香十六人

船 解漁船川船及五車馬車人力車荷積馬車荷積大七 大國稅ノ額ヲ

超過スヘカラス 十石未滿海船 八車荷積中小車荷積牛車ノ類

○水車 十石未滿

○乘馬

○屠畜

○漁業採藻ノ類

○十九番 賽作 麟祥 本條中字句ノ修正アリ即チ船車ノ下「國稅ノ額ヲ超過

スヘカラス」トアルヲ第一條ト其文例ヲ同フシ別行トナシ但國稅ノ

額ヲ超過スヘカラス」ト修正セント欲ス蓋シ本案ノ如クハ舟車ト



別項ノ如クナルカ如キノ嫌アリ且現行法往々此例アルヲ以テナリ

○七番 柴原和 賛成

○四番 野村素介 賛成

○廿四番 林友幸 賛成

○八番 黒田清綱 賛成

○十二番 東久世通禧 賛成

○議長 十九番ノ修正説ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○議長 發議ナキヲ以テ決ヲ取ラン十九番ノ修正説ニ同意者ハ起立

スヘシ

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ十九番ノ修正ニ決ス

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若

シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決

議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受

クヘシ

○四番 野村素介 本條中第三條ノ三字ヲ削リ換フルニ但ノ一字ヲ以テシ

漁業採藻ノ類ノ附加項トナサント欲ス蓋シ本條ハ昨日モ削除論ア

リシ如ク特ニ別條トスヘキ者ニアラス加フルニ前項捕鳥捕獸ノ四

字已ニ刪除スル以上ハ特ニ但書トスルノ體裁ヲ全フシ而シテ其効

力ハ毫モ差ナク却テ添美ノ姿ヲ爲スヲ覺フルナリ

○卅六番 細川潤次郎 賛成



○卅四番 榎村 正直 賛成

○廿四番 林友 幸 賛成

○八番 黒田 清綱 賛成

○四十番 鍋島 直彬 本官ハ前説ヲ變スルニハアラサレモ四番ノ説ハ寧ロ

原案ニ勝ルヲ以テ之ヲ賛成ス

○議長 四番ノ修正説ハ成規ノ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○十二番 東久世 通禧 本條中「又ハ新稅ヲ賦課セントスル」ノ文字アリ是レ

別條トスヘキノ性ヲ具フルヲ以テ本官ハ原案ヲ可トス

○五番 佐野 常民 單ニ慣例ヲ破ラサルノ注意ニ由ル者ナレハ四番ノ説ノ

如ク但書トナスヲ可トス

○議長 四番ノ修正説ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ四番ノ修正ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第五條中(決議ヲ以テ)ノ下(稅額制限内ニ於テ)ノ八字ヲ削ル

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第六條 削除

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ

起立者十九人



○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○七番 柴原和 建議ス第三條ヲ削リシ以上ハ後條ハ總テ繰上ケサルヘ

カラサルカ如シ四番ハ之ヲ如何スルノ意ナルヤ

○議長 總テ六七條ヲ削除スル以上ハ四番モ此例ニ依ラント欲スル

乎

○四番 野村素介 然リ後條ハ之ヲ繰上ケンノミ

○外二番 白根專一 從來法律ヲ改正増補削除スルニ二様ノ法アリト雖モ

現ニ用フル所ノ者ハタトヒ條項中削除スルコアルモ其存スル者ハ

依然其順ヲ亂サス只亡スル者ハ削除トシテ了ルノ法ナリ本案モ之

ニ依レリ

○卅六番 細川潤次郎 番外二番ノ言ノ如ク記憶ヲ亂サ、ル爲ニハ條項ヲ

變更セサルヲ可トスルナリ

○十九番 箕作麟祥 卅六番ノ言ノ如ク第三條削除ト掲ケハ可ナランノミ

○十五番 大給恒 本官モ亦卅六番ト意見ヲ同フス

○七番 柴原和 四番ハ第三條ノ字ヲ削除スト明言セサルヲ以テ本官ハ

前言ヲナセシノミ

○四番 野村素介 第三條ヲ削除シテ但ノ一字ヲ加フルハ本官修正ノ大旨

ナレハ既ニ之ヲ云ヘリ只每條ヲ繰上クルト云ヒシハ本官注意ノ達

セサル所ナレハ改メテ卅六番ノ說ニ從フヘシ

書記官 森山茂 左ノ案ヲ朗讀ス

第七條 削除

○議長 本案ニ同意者ハ起立スヘシ